

**IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel**  
バージョン 10.2.0

**インストール・ガイド**

**IBM**

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、53 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

**製品情報**

このマニュアルは IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のバージョン 10.2.0 を対象としており、それ以降のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel  
Version 10.2.0  
Installation Guide

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.6

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2005, 2013.

# 目次

概要	v
<b>第 1 章 新機能</b>	<b>1</b>
バージョン 10.2.0 の新機能	1
バージョン 10.1.1 の新機能	1
サポートされている環境およびプラットフォームへの機能拡張	1
追加の言語サポート	3
<b>第 2 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel</b>	<b>5</b>
<b>第 3 章 インストールの準備</b>	<b>7</b>
インストール前のリリース・ノートの確認	7
サポートされている環境	7
<b>第 4 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール</b>	<b>9</b>
Microsoft .NET Framework のインストール	10
Microsoft Excel 用 Primary Interop Assemblies (PIA)	10
Excel 用 Primary Interop Assemblies をインストールするよう Microsoft Office セットアップを変更する	11
Microsoft Excel 用の再頒布可能パッケージから Primary Interop Assemblies をインストールする	12
以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のアンインストール	12
IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール	13
中国語の文字を正しく表示する	14
Microsoft Windows XP クライアントで GB18030 サポートをインストールする	14
GB18030 フォント・リンクを有効にする	15
IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のテスト	16
<b>付録 A. ユーザー補助機能</b>	<b>19</b>
インストール・ウィザードのユーザー補助機能	19
インストール・ウィザードでのキーボード・ナビゲーション	19
ベンダーのソフトウェア	20
IBM とユーザー補助機能	20
<b>付録 B. トラブルシューティング</b>	<b>21</b>
問題のトラブルシューティング	21
知識ベース内の検索	23
フィックスの入手	24
IBM サポートへの連絡	24
IBM との情報の交換	25
IBM サポートへの情報の送信	25
IBM サポートからの情報の受信	26
サポート・アップデートのサブスクライブ	27
一般的なエラー	28
構成の問題	28
処理の問題	34
セキュリティーの問題	36
IBM Cognos Office の番号付きエラー・メッセージ	37
IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の番号付きエラー・メッセージ	40
<b>付録 C. IBM Cognos Office コンポーネントのブランド変更</b>	<b>43</b>
リソース・ファイル	43

IBM Cognos Office コンポーネントのブランド変更またはローカライズ	45
リソース・ファイル (.resx) の編集	45
更新されたリソース・ファイルのコンパイル	46
作業結果のテスト	47
<b>付録 D. 無人インストールのセットアップ</b>	<b>49</b>
インストール・ウィザードから生成されたファイルを使用したインストールのセットアップ	49
response.ats ファイルを使用したインストールのセットアップ	51
<b>特記事項</b>	<b>53</b>
<b>索引</b>	<b>57</b>

---

## 概要

このマニュアルは IBM® Cognos® Analysis for Microsoft Excel の使用にあたって参照してください。Microsoft Excel ベースのツールである IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使用すると、レポート作成のプロフェッショナルは、複数のシートで構成される、複数のデータベースに対する複数のクエリーを含むレポートを高度な方法で作成できます。

### 対象読者

本書は、IBM Cognos 製品 (IBM Cognos Business Intelligence、IBM Cognos for Microsoft Office、IBM Cognos PowerPlay® など) に対する知識を持つ読者を対象としています。また、読者には Microsoft Office システム (Microsoft Excel など) に対する知識も必要です。

### 情報の入手方法

IBM Cognos の製品ドキュメント (すべての各国語版のドキュメントを含む) を Web で入手するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。リリース・ノートはインフォメーション・センターへ直接公開されます。これには最新の技術情報および APAR へのリンクが含まれています。

さらに、IBM Cognos の製品ディスクには、製品のリリース・ノートとインストール・ガイドが PDF 形式で収録されています。

### 将来の見通しに関する記述

このマニュアルには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、何らかの資料、規約、または機能を提供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。特性や機能の開発、公開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

### ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体に障害を持つ方々に IT 製品をご使用いただけるように支援する機能です。IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel にはユーザー補助機能があります。詳細については、19 ページの『付録 A. ユーザー補助機能』を参照してください。IBM Cognos HTML 資料には、ユーザー補助機能が備わっています。PDF 文書は補助的なものであるため、追加のユーザー補助機能はありません。

### サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用さ

れるサンプル・データにより、架空のビジネス・オペレーションが描出されています。これら架空の記録には、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複製することは禁止されています。

---

## 第 1 章 新機能

このセクションでは、このリリースの新機能および変更された機能について説明します。この情報は、アップグレードやアプリケーションのデプロイメント戦略、およびユーザー向けの研修要件の計画を作成する上で役立ちます。

オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、アプリケーション・サーバーなど、IBM Cognos の製品でサポートされている環境の最新リストを確認するには、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266>) を参照してください。

---

### バージョン 10.2.0 の新機能

このセクションで後述する情報では、前回のリリース以降の新機能を示しています。直接関連するトピックへのリンクが用意されています。

- 今後 IBM Cognos Office 製品、例えば IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel および IBM Cognos BI for Microsoft Office などを使用するには、Microsoft .NET Framework 4 を使用する必要があります。

この更新された規格適合は、アップグレード済みのシステムに影響します。現在 IBM Cognos Office 製品を使用しており、Microsoft .NET Framework 2 のみがインストールされている場合、.NET Framework 4 もインストールする必要があります。IBM Cognos Office 製品をインストールする前に更新 .NET Framework をインストールする必要があります。Microsoft .NET Framework の異なるバージョンは共存可能です。以前のバージョンをアンインストールする必要はありません。

- 追加の言語サポート

IBM Cognos Office 製品で次の追加言語が使用可能です: クロアチア語、デンマーク語、カザフ語、スロベニア語、およびタイ語。

---

### バージョン 10.1.1 の新機能

このセクションで後述する情報では、前回のリリース以降の新機能を示しています。直接関連するトピックへのリンクが用意されています。

#### サポートされている環境およびプラットフォームへの機能拡張

機能拡張は、マルチプラットフォームと環境に対するサポートを拡張するために行われました。

#### 64 ビット・インストールのサポート

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel は、64 ビット環境をサポートします。64 ビット環境では、メモリー管理が改良され、スケーラビリティとパフォーマンスが向上しました。現在、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストー

ルと実行を、32 ビットのバージョンで行うか 64 ビットのバージョンで行うかの選択肢があります。IBM Cognos アプリケーションは、64 ビット・オペレーティング・システムでは、Excel の 32 ビットおよび 64 ビット Microsoft Office バージョンで実行することができます。

64 ビットのインストールを実行する場合、インストールに使用されるデフォルトのパスは、32 ビット・インストールで使用されるデフォルトのパスとは異なります。以下に、デフォルトのインストール・ディレクトリーを示します。

- 32 ビット・インストールの場合 - C:\Program Files\IBM\cognos\Cognos for Microsoft Office
- 64 ビット OS の 64 ビット・インストールの場合 - C:\Program Files\IBM\cognos\Cognos for Microsoft Office"
- 64 ビット OS の 32 ビット・インストールの場合 - C:\Program Files(X86)\IBM\cognos\Cognos for Microsoft Office"

サポートされる環境とプラットフォームについては、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/software/data/cognos/customercenter/>)(新しいウィンドウで開きます) をご覧ください。

## Microsoft Office 2010 のサポート

Microsoft Excel ソフトウェアのバージョン 2010 が、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel でサポートされるようになりました。

新しい Office Open XML 形式が、ECMA インターナショナルでサポートされる業界標準として認識されるようになったため、新しい形式 (Microsoft Office 2010 でサポートされる) を使用すると、マルチプラットフォームでの実装を可能にすることによって、拡張性と相互運用性が高まります。

オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、およびアプリケーション・サーバーに関する情報など、IBM Cognos Business Intelligence 製品でサポートされる環境の最新のリストを確認するには、[www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266) (新しいウィンドウで開きます) を参照してください。

## Mozilla Firefox のサポート

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel で Mozilla Firefox Web ブラウザーのバージョン 4 がサポートされるようになりました。

オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、およびアプリケーション・サーバーに関する情報など、IBM Cognos Business Intelligence 製品でサポートされる環境の最新のリストを確認するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038296>) (新しいウィンドウで開きます) を参照してください。

## Internet Explorer のサポート

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel で Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーのバージョン 9 がサポートされるようになりました。



オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、およびアプリケーション・サーバーに関する情報など、IBM Cognos Business Intelligence 製品でサポートされる環境の最新のリストを確認するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038296>) (新しいウィンドウで開きます) を参照してください。

## 追加の言語サポート

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel でノルウェー語がサポートされるようになりました。



---

## 第 2 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel は、Microsoft Excel の中でセキュアな IBM Cognos Business Intelligence および IBM Cognos TM1<sup>®</sup> コンテンツを扱います。

ユーザーはさまざまな種類のデータ・ソースから Excel で複数シート、複数クエリーの高度なレポートを作成でき、IBM Cognos のディメンションでモデル化されたデータを分析および探索することができます。ユーザーが業務上の問題を解決し、重要な結果を最も効果的な形式で提示できるように、このアプリケーションは数式ベースのデータ・アクセスを提供します。

IBM Cognos BI では、このアプリケーションは、企業のデータを分析し、傾向、機会、問題、またはプロジェクトの特徴を特定するために使用されます。IBM Cognos TM1 では、このアプリケーションは、ビジネスおよび運用データの計画と測定を行う財務アナリストおよびプランナーによって使用されます。



---

## 第 3 章 インストールの準備

IBM Cognos Office コンポーネントをインストールする前に、コンポーネントを作動可能にするためのリソースをご使用の環境にセットアップする必要があります。

セットアップ手順のガイドとして、以下のチェックリストを使用できます。

- リリース・ノートを確認します。
- サポートされている環境

これらの作業が完了したら、9 ページの『第 4 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール』に進みます。

---

### インストール前のリリース・ノートの確認

IBM Cognos 製品をインストールする前に、インストール計画に影響する可能性のあるすべての事柄を知っておくことが重要です。

このインストール・ガイドが作成された時点では判明していなかった最新の問題が存在する可能性があります。

製品をインストールする前に、リリース・ノートを確認してください。リリース・ノートには、既知の問題についての最新情報と、ドキュメンテーションの更新、サポート対象外についての情報が含まれています。リリース・ノートは、インストール・ウィザードの最初のページから参照できるほか、製品ディスクにも収録されています。リリース・ノートの最新版は、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/software/data/cognos/customercenter/>) から入手できます。

---

### サポートされている環境

製品が正常に動作するように、最低限必要なオペレーティング・システムのパッチをすべて適用し、サード・パーティー・ソフトウェアについては必ずサポートされるバージョンのみを使用してください。

サポートされている環境の最新のリストについては、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg2703826>) を参照してください。Web サイトには、お客さまの環境について、下記の部分に関連した要件の情報が、記載されています。

- オペレーティング・システム
- パッチまたはサービス・パックあるいはそれに相当するもの
- Web ブラウザー
- Web サーバー
- ディレクトリー・サーバー
- データベース・サーバー
- アプリケーション・サーバー

特に明示されない限り、IBM Cognos 製品には、言及されているバージョンより後のバージョンのバッチ/サービス・パックとの互換性があります。

Linux オペレーティング・システムはさまざまな配布版で提供され、さまざまなハードウェア・プラットフォームがサポートされることに注意してください。ご使用のオペレーティング・システムとハードウェアの組み合わせがサポートされることを確認してください。

## **Cognos 製品と仮想化環境**

IBM virtualization policy ([http://www.ibm.com/software/support/virtualization\\_policy.html](http://www.ibm.com/software/support/virtualization_policy.html)) では、仮想化環境の IBM サポートについて説明されています。

---

## 第 4 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使用するには、Microsoft .NET Framework 4.0 以降、および IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel コンポーネントをインストールする必要があります。

IBM Cognos Business Intelligence サンプルには、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のサンプルが含まれています。これらのサンプルは、Great Outdoors という架空の会社のデータを使用して、製品の機能と、技術およびビジネスに関するベスト・プラクティスを例示します。また、これらを使用すると、レポートのデザイン方法を試したり共有したりできるほか、トラブルシューティングを行うこともできます。サンプルを使用するには、管理者がサンプルをセットアップして構成する必要があります。または、サンプルがインストールされている場所について、管理者に問い合わせてください。サンプルをセットアップして構成する方法については、IBM Cognos「インストールおよび設定ガイド」、または IBM Cognos「管理およびセキュリティー・ガイド」の説明を参照してください。

新しいバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をインストールするには、その前にまず以前のバージョンをアンインストールする必要があります。

### 手順

1. Microsoft .NET Framework をインストールします。

詳しくは、Microsoft .NET Framework のインストールを参照してください。

2. Primary Interop Assemblies をインストールします。

詳しくは、Primary Interop Assemblies のインストールを参照してください。

3. 以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をアンインストールします。

詳細については、12 ページの『以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のアンインストール』を参照してください。

4. IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel コンポーネントをインストールします。

詳しくは、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel コンポーネントのインストールを参照してください。

5. IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をテストします。

詳しくは、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のテストを参照してください。

---

## Microsoft .NET Framework のインストール

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使用するには、すべてのユーザー・コンピュータに Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 以降をインストールする必要があります。

サポートされる Microsoft .NET Framework のバージョンの一覧については、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266>) を参照してください。

英語以外のオペレーティング・システムに Microsoft .NET Framework をインストールすると、Microsoft .NET のエラー・メッセージ、ショートカット、およびユーティリティーが英語で表示されます。

英語以外の言語では、Microsoft .NET Framework Language Pack を適用すると、エラー・メッセージ、ショートカット、ユーティリティーがオペレーティング・システムの言語で表示されます。例えばフランス語のオペレーティング・システムに Microsoft .NET Framework をインストールした場合、Microsoft .NET Language Pack (フランス語) も適用する必要があります。

### 手順

1. Microsoft ダウンロード Web サイトに移動します。
2. .NET Framework 4.0 以降を検索し、再頒布可能パッケージを選択して、指示に従ってダウンロードします。
3. この .NET Framework バージョンに関連した他のセキュリティ・アップデートがあるかどうか確認して、ダウンロードします。

---

## Microsoft Excel 用 Primary Interop Assemblies (PIA)

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の機能を使用するには、Excel 用の Primary Interop Assemblies (PIA) をインストールしておく必要があります。通常は、Microsoft Office をコンピュータにインストールするときに PIA も自動的にインストールされます。ただし PIA を別途インストールする必要があることもあります。

.NET Framework 4.0 以降をターゲットとする Office ソリューションを実行するには、コンピュータ・ワークステーションのグローバル・アセンブリー・キャッシュ内に PIA をインストールして登録しておく必要があります。

PIA の完全なセットをグローバル・アセンブリー・キャッシュにインストールするには、次の 2 つの方法があります。

- Microsoft Office のセットアップを変更する。

Office システムをインストールする前に .NET Framework をインストールしなかった場合、Office インストール時に PIA は一緒にインストールされません。

Office システムのインストール後に .NET Framework をインストールした場合、Office のセットアップを変更することで PIA をインストールできます。

- 再配布可能な PIA パッケージからインストールする。



Microsoft Office PIA は、グローバル・アセンブリー・キャッシュ内 (*drive:/WINDOWS/assembly* または *drive:/WINNT/assembly*) にインストールされます。

## Excel 用 Primary Interop Assemblies をインストールするよう Microsoft Office セットアップを変更する

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の機能を使用するには、Excel 用の Primary Interop Assemblies (PIA) をインストールしておく必要があります。通常は、Microsoft Office をコンピューターにインストールするときに PIA も自動的にインストールされます。ただし PIA を別途インストールする必要があることもあります。

.NET Framework 4.0 以降をターゲットとする Office ソリューションを実行するには、コンピューター・ワークステーションのグローバル・アセンブリー・キャッシュ内に PIA をインストールして登録しておく必要があります。ただし .NET Framework 4 をターゲットとする Office ソリューションを実行するには、コンピューター上に Office PIA は必要ありません。

Office システムをインストールする前に .NET Framework をインストールしなかった場合、Office インストール時に PIA は一緒にインストールされません。Office システムのインストール後に .NET Framework をインストールした場合、Office のセットアップを変更することで PIA をインストールできます。

Microsoft Office PIA は、グローバル・アセンブリー・キャッシュ内 (*drive:/WINDOWS/assembly* または *drive:/WINNT/assembly*) にインストールされます。

### 始める前に

.NET Framework および Microsoft Office PIA をインストールするには、そのコンピューターの管理者でなければなりません。

### 手順

1. 「スタート」メニューから「コントロール パネル」をクリックして、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
2. プログラムの一覧から Microsoft Office バージョンをクリックして、「変更」をクリックします。
3. **Microsoft Office** セットアップ・ウィザードの「メンテナンス モード オプション」ページで、「機能の追加/削除」を選択します。
4. 「カスタム セットアップ」ページで「Excel」オプションおよび「アプリケーションごとにオプションを指定してインストール」チェック・ボックスを選択して、「次へ」をクリックします。
5. 「詳細なカスタマイズ」ページで「Microsoft Office」、「Microsoft Office Excel」ノードを展開します。
6. 「.Net Programmability Support」機能の横の記号をクリックして、「マイ コンピュータから実行」をクリックします。

機能がインストールされて、ハード・ディスクに保管されます。

7. 「更新」をクリックします。

## Microsoft Excel 用の再頒布可能パッケージから Primary Interop Assemblies をインストールする

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の機能を使用するには、Excel 用の Primary Interop Assemblies (PIA) をインストールしておく必要があります。通常は、Microsoft Office をコンピューターにインストールするときに PIA も自動的にインストールされます。ただし PIA を別途インストールする必要があることもあります。Office システムをインストールする前に .NET Framework をインストールしなかった場合、Office インストール時に PIA は一緒にインストールされません。再頒布可能な PIA パッケージからこれらをインストールすることができます。

.NET Framework 4.0 以降をターゲットとする Office ソリューションを実行するには、コンピューター・ワークステーションのグローバル・アセンブリー・キャッシュ内に PIA をインストールして登録しておく必要があります。ただし .NET Framework 4 をターゲットとする Office ソリューションを実行するには、コンピューター上に Office PIA は必要ありません。

Microsoft Office PIA は、グローバル・アセンブリー・キャッシュ内 (*drive:/WINDOWS/assembly* または *drive:/WINNT/assembly*) にインストールされます。

### 始める前に

.NET Framework および Microsoft Office PIA をインストールするには、そのコンピューターの管理者でなければなりません。

### 手順

1. .NET Framework 4.0 がインストールされていることを確認してください。
2. Microsoft ダウンロード Web サイトに移動します。
3. ダウンロード・ページの指示に従って Primary Interop Assemblies をインストールします。

---

## 以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のアンインストール

以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel が存在する場合、新しいバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をインストールするには、その前に古いバージョンをアンインストールする必要があります。

アンインストールを実行する場合、すべてのアプリケーション・ファイルとディレクトリーがアンインストール・プロセスで完全に削除されるとは限りません。このため、その操作を手動で行う必要があることがあります。

同じ場所に複数のコンポーネントをインストールした場合、アンインストール・ウィザードを使用して、アンインストール対象のパッケージを選択できます。パッケージ内のすべてのコンポーネントがアンインストールされます。

## 始める前に

アンインストールする前に、すべての Microsoft Office アプリケーションを閉じます。

### 手順

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」、「IBM Cognos for Microsoft Office」、「IBM Cognos のアンインストール (Uninstall IBM Cognos)」、「IBM Cognos のアンインストール (Uninstall IBM Cognos)」の順にクリックします。

アンインストール・ウィザードが表示されます。

**ヒント:** インストール時に作成されるプログラム・フォルダーのデフォルト名は IBM Cognos for Microsoft Office です。別の名前を選択した場合、そのフォルダーに移動してプログラムを見つけてください。

2. 指示に従ってコンポーネントをアンインストールします。

ファイルのアンインストール時にアンインストール・ウィザードによって実行された処理は、cognos\_uninst\_log.txt ファイルに記録されます。

**ヒント:** ログ・ファイルを見つけるには Temp ディレクトリーを調べてください。

---

## IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール

To install IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をインストールするには、製品 CD または中心的な LAN ロケーションから issetup.exe ファイルを実行します。このファイルは Microsoft .NET Framework のセキュリティー・アップデートをインストールした後、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel コンポーネントをインストールします。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のアプリケーション・サンプルは、別のディスクに含まれています。サンプルを使用するには、IBM Cognos Business Intelligence 管理者が IBM Cognos BI サンプル・ディスクからインストールする必要があります。

### 始める前に

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel は、32 ビットまたは 64 ビットのインストールとして使用可能です。32 ビットまたは 64 ビットの Windows コンピューターには、対応する製品をインストールしなければなりません。

コンポーネントの更新とインストールを行う前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- そのコンピューターに対する管理権限を持っている。
- Microsoft .NET Framework 4.0 以降をインストール済みである。
- 以前のバージョンの IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をアンインストール済みである。

- IBM Cognos for Microsoft Office 製品を使用するための適切なライセンスがある。

## 手順

1. IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の CD を挿入するか、インストール・ファイルがダウンロードされた場所に移動します。新しいウィンドウに「ようこそ」ページが表示されます。
2. 「ようこそ」ページが表示されない場合、または CD 以外からインストールしている場合には、オペレーティング・システムと Microsoft Excel のバージョンに応じて、32 ビット・バージョンをインストールするか 64 ビット・バージョンをインストールするか選択します。
  - 32 ビット・バージョンをインストールするには、win32 ディレクトリーに移動して issetup.exe をダブルクリックします。
  - 64 ビット・バージョンをインストールするには、winx64h ディレクトリーに移動して issetup.exe をダブルクリックします。
3. インストールで使用する言語を選択します。

ここで選択する言語は、ユーザー・インターフェースの言語を決定します。インストール後に、インストール済みの任意の言語に変更することができます。

4. 「コンポーネント選択 (Component Selection)」ページで、「IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel」を選択します。
5. インストール・ウィザードの指示に従って、必要なファイルをコンピューターにコピーします。

## タスクの結果

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel または IBM Cognos BI に使用可能なサンプルを使用するには、管理者が IBM Cognos BI サンプルをインストールする必要があります。詳細については、IBM Cognos BI 「インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

---

## 中国語の文字を正しく表示する

IBM Cognos Office アプリケーションで中国語 (簡体字) の文字が正しく表示されないことがあります。中国語 (簡体字) の文字を正しく表示するには、以下の作業を実行する必要があります。

- 『Microsoft Windows XP クライアントで GB18030 サポートをインストールする』
- 15 ページの『GB18030 フォント・リンクを有効にする』

## Microsoft Windows XP クライアントで GB18030 サポートをインストールする

ロケールが中国語 (簡体字) である場合、IBM Cognos for Microsoft Office アプリケーションのメニューとダイアログ・ボックスを正しく表示するには、適切な言語サポートをインストールする必要があります。

GB18030 は文字エンコードの中国標準規格です。Windows XP またはそれ以前で中国語 (簡体字) の文字を正しく表示するには、Windows コア・フォント (Tahoma、Arial、Microsoft Sans Serif など) で GB18030 サポートを追加する必要があります。GB18030 サポート・パッケージには TrueType フォント集合ファイル SimSun18030.ttc が含まれます。これは 2 つの中国語フォント SimSun-18030 および NSimSun-18030 を結合したものです。

中国語 (簡体字) 以外の任意のバージョンの Windows に、中国語 (簡体字) の言語サポートをインストールすることができます。Windows XP がインストールされたコンピュータで、以下の手順を実行してください。

### 手順

1. 「スタート」メニューから「コントロール パネル」をクリックして、「地域と言語のオプション」をダブルクリックします。
2. 「言語」タブで、「東アジア言語のファイルをインストールする」チェック・ボックスを選択します。
3. Microsoft からのダウンロードとして GB18030 サポート・パッケージをインストールします。

## GB18030 フォント・リンクを有効にする

IBM Cognos for Microsoft Office アプリケーションで GB18030 文字を正しく表示するには、いくつかの項目を正しく設定する必要があります。

以下のようにになっていることを確認してください。

- 「地域と言語のオプション」ダイアログ・ボックス (「コントロール パネル」、「地域と言語のオプション」、「詳細設定」タブ) で、Unicode 対応でないプログラムの言語が「中国語 (中国)」に設定されていること。
- FontLink レジストリー項目には、それぞれのアクティブ・システム・フォント書体名に SimSun-18030 が含まれていること。

フォント・リンクを使用することにより、アプリケーションで設定されたフォントがサポートしない非ラテン文字でもレンダリングすることができます。アプリケーションで 1 つのフォントを使って必要なすべての文字をレンダリングできないような場合に、これが使用されます。1 つ以上のフォント (「リンクされたフォント」) を、別の 1 つのフォント (「基本フォント」) にリンクすることができます。

フォントをリンクした後に基本フォントを使用すると、基本フォントに存在せず、いずれかのリンクされたフォントに含まれる文字を表示することができます。例えば Han フォントを Tahoma フォントにリンクすると、Tahoma フォントで中国語文字を表示できます。

**重要:** レジストリーを不適切に編集すると、重大な問題が発生して、オペレーティング・システムの再インストールが必要になることがあります。レジストリーを編集した結果として生じる問題は、解決不能になる可能性があります。レジストリーを編集する前に、コンピュータ上の重要データをすべてバックアップしてください。

## 手順

1. Windows の「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
2. 「名前」ボックスに Regedit と入力して、「OK」をクリックします。
3. レジストリ エディタで、次のレジストリー分岐に移動します。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows  
NT¥CurrentVersion¥FontLink¥SystemLink
4. 「名前」リストで、リンク先となる「**Tahoma**」フォントを右クリックして、「修正」をクリックします。
5. 「複数行文字列の編集」ダイアログ・ボックスで、新しい行に以下の文字列を追加します。  
  
SimSun18030.ttc,SimSun-18030
6. 「OK」をクリックします。
7. SimSun を参照する Microsoft Sans Serif、Arial、および SimSun フォントに関して手順 4 から 6 を繰り返します。
8. 「OK」をクリックしてコンピューターを再起動します。

---

## IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のテスト

アプリケーションを起動することにより、クライアント・コンポーネントのインストールを検査することができます。ユーザーが Microsoft Excel を起動したとき、または Microsoft Excel スプレッドシートを開いたときに、IBM Cognos Office が自動的に起動します。その後、ユーザーは IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel にリンクできます。

### 始める前に

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の全機能にアクセスするには、IBM Cognos Business Intelligence の Express の作成者またはレポート管理者の役割のメンバーである必要があります。管理者は IBM Cognos Administration を使用してこれらの特権を構成する必要があります。

## 手順

1. Microsoft Excel を起動するか、Microsoft Excel スプレッドシートを開きます。
2. ツールバーに「**IBM Cognos**」が表示されることを確認します。  
  
「**IBM Cognos**」がツールバーに表示されない場合、「表示」メニューから「ツールバー」、「**IBM Cognos for Microsoft Office**」の順にクリックします。
3. 操作ウィンドウを表示するには、ツールバーの「**IBM Cognos**」をクリックします。  
  
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel へのリンクがそこに含まれています。
4. 操作ウィンドウで「**IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel**」をクリックします。

操作ウィンドウの見出しが「**IBM Cognos Analysis**」に変わります。操作ウィンドウ上のアイコンをクリックすることで、操作ウィンドウを切り替えることができます。





---

## 付録 A. ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体の不自由な方々に IT 製品をご使用いただけるように支援する機能です。

---

### インストール・ウィザードのユーザー補助機能

インストール・ウィザードには、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体の不自由な方々に IT 製品をお使いいただけるようユーザーを支援するユーザー補助機能が装備されています。

インストール・ウィザードの主なユーザー補助機能を次のリストに示します。

- アクセラレーター・キーとコマンド・キーを使用して、インストール・ウィザードをナビゲートできます。

Microsoft Windows では、Alt キーを押しながらアクセラレーター・キーを押すと操作が起動されます。例えば ALT+S は、まず ALT キーを押し、押したままの状態です。

- インストール・ウィザードは Microsoft Active Accessibility (MSAA) を使用します。これにより、視力の限られたユーザーはスクリーン・リーダー・ソフトウェアとデジタル・スピーチ・シンセサイザーを使用して、画面の表示内容を音声で聞くことができます。

---

### インストール・ウィザードでのキーボード・ナビゲーション

以下の表は、Windows オペレーティング・システムでインストール・ウィザードの主なタスクを実行する際に使用できるキーボード・ショートカットの一覧です。スクリーン・リーダーを使用している場合は、ウィンドウを最大化すると、次のトピックにあるキーボード・ショートカット表が完全に拡張されてアクセス可能になります。

注: 以下のキーボード・ショートカットは、標準の US (英語) キーボードに基づいています。言語によっては、このトピックの内容の一部が適用されない場合があります。

表 1. インストール・ウィザードのキーボード・ショートカット

目的	操作
ページ上の次のフィールドに移動する。	TAB
ページ上の前のフィールドに戻る。	SHIFT+TAB
インストール・ウィザードを閉じる。	ALT+F4
次の構成ステップに移動する。	ALT+N

表1. インストール・ウィザードのキーボード・ショートカット (続き)

目的	操作
前の構成ステップに戻る。	ALT、B。Windows 7 システム以降では ALT、B、B
リストの中で次の選択項目に移動する。	↓ (下矢印)
リストの中で前の選択項目に移動する。	↑ (上矢印)
選択したボタンの操作を実行する、または選択したチェック・ボックスをオン/オフにする。	スペース・バー

以下の表は、インストール・ウィザードの「**ご使用条件 (License Agreement)**」ページで主なタスクを実行する際に使用できるキーボード・ショートカットの一覧です。

表2. 使用許諾契約書のキーボード・ショートカット

目的	操作
使用条件に同意する。	ALT+A
使用条件に同意しない。	ALT+D
使用条件に同意せず、インストール・ウィザードを閉じる。	ALT+X

## ベンダーのソフトウェア

IBM Cognos for Microsoft Office のコンポーネントには、IBM の「ご使用条件」の対象外であるベンダー・ソフトウェアが含まれています。これらの製品のユーザー補助機能については記述していません。これらの製品に関するユーザー補助の情報については、各ベンダーにお問い合わせください。

## IBM とユーザー補助機能

ユーザー補助機能に対する IBM の取り組みの詳細については、IBM アクセシビリティ・センターを参照してください。

<http://www.ibm.com/able> (新しいウィンドウで開きます)

---

## 付録 B. トラブルシューティング

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel コンポーネントのインストール時やインストール後に発生する特定の問題を解決するためのリソースとして、以下のトラブルシューティング参照情報を役立てることができます。

---

### 問題のトラブルシューティング

トラブルシューティングは、問題解決のための体系的なアプローチです。トラブルシューティングの目的は、ある部分が予期したとおりに機能しない理由および問題を解決する方法を判別することです。

トラブルシューティング・プロセスの第 1 ステップは、問題の内容を十分に記述することです。問題を記述することによって、ユーザーおよび IBM 技術サポート担当員が、問題の原因の探索を開始すべき場所が分かります。このステップでは、次の基本的な質問をご自身で検討します。

- 問題の症状はどのようなものか。
- 問題がどこで発生したか。
- 問題がいつ発生するか。
- 問題がどのような条件で発生するか。
- 問題を再現できるか。

通常、これらの質問に回答すると、問題を十分に記述することができ、問題の解決につながります。

#### 問題の症状はどのようなものか。

問題の記述を開始するときに、最も明らかな質問は「何が問題であるか」です。この質問は単純なように思われますが、これをいくつかのさらに絞り込んだ質問に分解し、問題をさらに具体的に記述することができます。そのような質問を以下に示します。

- だれ (または何) が問題を報告しているか。
- エラー・コードおよびメッセージはどのようなものか。
- システムでどのように障害が発生したか。例えば、ループ、ハング、異常終了、性能低下、結果の誤りなど。

#### 問題がどこで発生したか。

問題の発生源の判別は必ずしも容易ではありませんが、これは問題の解決のためには最も重要なステップの 1 つです。報告のあったコンポーネントと障害が発生しているコンポーネントの間に、多数のテクノロジー層が存在する可能性があります。ネットワーク、ディスク、およびドライバーは、問題を調査する際に考慮すべきコンポーネントの一部に過ぎません。

以下の質問により、問題が発生した層を切り分けることができます。

- その問題は 1 つのプラットフォームまたはオペレーティング・システムに固有のものか、それとも複数のプラットフォームまたはオペレーティング・システムで共通するものか。
- 現在の環境および構成はサポートされているか。

ある層で問題が報告された場合、問題は必ずしもその層で発生したとは限りません。問題の発生場所を特定するためには、その問題が存在する環境を理解することも必要です。オペレーティング・システムとバージョン、対応するすべてのソフトウェアとバージョン、およびハードウェアなど、時間をかけて問題の環境を完全に記述してください。サポートされている環境で実行していることを確認してください。問題をトレースバックすると、一緒に実行することが意図されていないか、または一緒に使用した場合のテストが十分ではない非互換レベルのソフトウェアが原因であることが数多くあります。

### 問題がいつ発生するか。

特に発生が 1 回限りのケースについては、障害に至るイベントの詳細なタイムラインを作成します。前にさかのぼることにより、最も容易にタイムラインを作成できます。エラーが報告された時点 (可能な限り正確に、ミリ秒まで) から開始して、使用可能なログおよび情報を前にたどります。通常は、診断ログで最初に検出した疑わしいイベントまで調べるだけがかまいません。

イベントを時系列で詳細に記述するために、次の質問に答えます。

- 問題が日中または夜間の特定の時刻のみに発生するか。
- 問題発生の頻度はどの程度か。
- 問題が報告された時刻に至るまでのイベントのシーケンスはどのようなものか。
- ソフトウェアやハードウェアのアップグレードまたはインストールを行うなど、環境を変えても問題は発生するかどうか。

### 問題がどのような条件で発生するか。

問題が発生した時にどのシステムおよびアプリケーションが実行されていたかを知ることは、トラブルシューティングのための重要な要素です。環境に関する以下の質問は、問題の根本原因を特定する上で役立ちます。

- その問題が、常に同じタスクの実行中に発生するか。
- 問題が表面化するには、特定のイベント・シーケンスが発生する必要があるか。
- 同時に他のアプリケーションも障害を起こすか。

この種の質問に答えることは、問題が発生する環境を説明し、依存関係を相関させるための助けになります。単に同じような時刻に複数の問題が発生していても、必ずしもそれらの問題に関連があるとは限らないことに留意してください。

### 問題を再現できるか。

再現可能な問題は、多くの場合容易に解決できます。しかし、再現性のある問題にも不利な点があります。すなわち、その問題により重大なビジネス・インパクトがある場合、問題が繰り返し発生することは好ましくありません。可能であれば、問題をテスト環境または開発環境で再現させます。通常、このようにすると調査の際の柔軟性が高まり、制御しやすくなります。以下の質問に回答してください。

- テスト・システム上で問題を再現できるか。
- 複数のユーザーまたはアプリケーションで同じタイプの問題が発生しているか。
- 問題を再現できるのは、単独のコマンドを実行した場合か、一連のコマンドを実行した場合か、特定のアプリケーションを実行した場合か。

#### 『知識ベース内の検索』

多くの場合、IBM 知識ベースを検索することによって、問題の解決策を見つけることができます。利用可能なリソース、サポート・ツール、検索方式を使用することにより、結果を最適化できます。

---

## 知識ベース内の検索

多くの場合、IBM 知識ベースを検索することによって、問題の解決策を見つけることができます。利用可能なリソース、サポート・ツール、検索方式を使用することにより、結果を最適化できます。

### このタスクについて

IBM Cognos のインフォメーション・センターを検索すると有用な情報が見つかりますが、場合によっては問題を解決するためにインフォメーション・センター以外の調査も必要になります。

### 手順

知識ベースで必要な情報を検索するには、以下の方法のうちの 1 つ以上を使用します。

- IBM サポート・ポータル (IBM Cognos Business Intelligence サポート・ポータル) (新しいウィンドウで開きます) を使用して、必要なコンテンツを検索します。

IBM Support Portal では、IBM のすべてのシステム、ソフトウェア、およびサービスのすべての技術サポート・ツールおよび情報を一元的にまとめて表示します。この IBM Support Portal という 1 つの場所から、IBM 電子サポート・ポータルフォリオにアクセスできます。問題の予防とより迅速な問題解決のために必要な情報とリソースに重点を置くようにページを調整することができます。IBM Support Portal をよく理解するには、このツールに関するデモ・ビデオ ([https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the\\_ibm\\_support\\_portal\\_videos](https://www.ibm.com/blogs/SPNA/entry/the_ibm_support_portal_videos)) (新しいウィンドウで開きます) をご覧ください。これらのビデオでは、IBM Support Portal を紹介し、トラブルシューティング用などのリソースを探索するほか、ポートレットを移動、追加、削除してページを調整する方法を示します。

- さらに以下の技術リソースのいずれかを使用して、IBM Cognos に関するコンテンツを検索する。
  - IBM Cognos BI APAR (問題レポート) (新しいウィンドウで開きます)
  - IBM Cognos BI サポート Web サイト (新しいウィンドウで開きます)。
  - IBM Cognos フォーラム & コミュニティ (新しいウィンドウで開きます)。
- IBM のマストヘッド検索を使用してコンテンツを検索します。IBM マストヘッド検索を使用するには、[ibm.com](http://ibm.com)<sup>®</sup> の任意のページの「検索」フィールドに検索文字列を入力します。

- Google や Yahoo、Bing などの外部検索エンジンを使用することにより、コンテンツを検索する。 外部の検索エンジンを使用した場合は、ibm.com ドメインの外にある情報が結果に含まれる可能性が高くなります。しかし、ibm.com 上にないニュースグループやフォーラム、およびブログで、IBM 製品に関する有益な問題解決情報が見つかる場合があります。

**ヒント:** IBM 製品に関する情報を検索する場合は、「IBM」と製品の名前を検索に含めてください。

---

## フィックスの入手

製品フィックスを利用して、問題を解決できる場合があります。

### 手順

フィックスを検索してインストールするには、次のようにします。

1. 必要なフィックスを特定します (Fix Central)(新しいウィンドウで開きます)(<http://www.ibm.com/support/fixcentral/>)。
2. フィックスをダウンロードします。ダウンロード・マニュアルを開き、「Download package」セクション内のリンクに従います。
3. ダウンロード文書の「Installation Instructions」セクションの指示に従ってフィックスを適用します。
4. フィックスやその他の IBM サポート情報についての E メール通知を毎週受け取るよう、登録してください。

---

## IBM サポートへの連絡

IBM サポートは、ソフトウェアに関する疑問にお答えするための各種 IBM リソースへのアクセス方法を提供しています。

### 始める前に

技術情報など、他の自己解決型オプションを使用しても回答や解決策が得られなかった場合は、IBM サポートにご連絡ください。IBM サポートにご連絡されるときは、IBM との保守契約が有効になっていること、およびご連絡をされる方が IBM に問題を送信する権限を持っている必要があります。次の情報を揃えておく必要があります。

- カスタマー識別番号
- サービス要求番号 (すでにサービス要求が進行中の場合)
- お客様の連絡先電話番号
- 使用しているソフトウェアのバージョン
- 使用している操作環境のバージョン
- 問題の発生時点で行っていた操作についての詳細説明
- 表示されるエラー・メッセージの正確な内容
- 問題解決のために試みた操作

使用可能なサポートのタイプについては、「*Software Support Handbook*」(新しいウィンドウで開きます)の **Support portfolio** のトピックを参照してください。

## 手順

問題について IBM サポートに連絡するには、以下のステップを実行します。

1. 問題を明記し、背景情報を収集し、問題の重大度を判断します。詳しくは、「*Software Support Handbook*」の **Getting IBM support** (新しいウィンドウで開きます) のトピックを参照してください。
2. 診断情報を収集してください。
3. 以下のいずれかの方法で、IBM サポートに問題を報告します。
  - IBM Support Assistant (ISA) の使用: このフィーチャーは、IBM への Electronic Service Request のオープン、更新、および表示を行うときに使用します。収集されたデータがあれば、サービス要求に添付することができます。これにより分析を迅速に行うことができ、解決までの時間短縮につながります。
  - オンラインで IBM サポート・ポータル (新しいウィンドウで開きます) から行う: 「サービス・リクエスト」ページの「サービス・リクエスト」ポートレットから、お客様のすべてのサービス要求をオープン、更新、および表示できます。
  - 電話: 連絡先電話番号については、Web ページ **Directory of worldwide contacts** (新しいウィンドウで開きます) を参照してください。

## タスクの結果

送信いただいた問題がソフトウェア障害または文書の不足や不正確さについてである場合、IBM サポートは、プログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には問題が詳細に記述されます。可能なときには常に、IBM サポートは、APAR が解決されてフィックスが配信されるまで実装できる次善策を提供します。IBM は、解決された APAR を IBM Support Web サイトで毎日公開しているため、同じ問題が発生している他のユーザーは同じ解決方法を活用することができます。

---

## IBM との情報の交換

問題を診断または識別するには、ご使用のシステムのデータおよび情報を IBM サポートに提供する必要がある場合があります。

また、問題の判別に使用するためのツールやユーティリティを、IBM サポートが提供する場合があります。

## IBM サポートへの情報の送信

問題解決にかかる時間を短縮するために、IBM サポートにトレースおよび診断情報を送信することができます。

### 手順

IBM サポートへ診断情報を送信するには、次のようにします。

1. 問題管理レコード (PMR) を開きます。IBM Support Assistant (新しいウィンドウで開きます) または IBM サービス・リクエスト・ツール (新しいウィンドウで開きます) を使用することができます。
2. 必要な診断データを収集します。診断データによって、PMR の解決に必要な時間が短縮されます。診断データの収集は、手動でも自動でも構いません。
3. TRSMAIN または AMATERSE プログラムを使用してファイルを圧縮します。無料ユーティリティを IBM から IBM Cognos BI システムにダウンロードして、TSO RECEIVE コマンドを使用してこのユーティリティをインストールします。
4. ファイルを IBM に転送します。IBM へのファイルの転送には、次のいずれかの方法を使用できます。
  - サービス・リクエスト・ツール (新しいウィンドウで開きます)
  - 標準のデータ・アップロード方法: FTP、HTTP
  - 機密保護機能のあるデータ・アップロード方法: FTPS、SFTP、HTTPS
  - E メール

IBM Cognos 製品を使用しており、PMR の送信に ServiceLink/IBMLink を使用する場合は、診断データを E メールまたは FTP で IBM サポートに送信します。

これらのデータ交換方法はすべて、IBM サポートのサイト (新しいウィンドウで開きます) で説明されています。

## IBM サポートからの情報の受信

時として、IBM 技術サポート担当員が、お客様に対して診断ツールやその他のファイルをダウンロードするようお願いすることがあります。これらのファイルをダウンロードするには、FTP を使用できます。

### 始める前に

IBM 技術サポート担当員により、ファイルのダウンロードに使用するように設定済みのサーバーと、アクセス先の正確なディレクトリーとファイル名が提供されていることを確認してください。

### 手順

IBM サポートからのファイルのダウンロード方法は、次のとおりです。

1. FTP を使用して、IBM 技術サポート担当員が指定したサイトに接続し、anonymous としてログオンします。パスワードとして E メール・アドレスを使用します。
2. 該当するディレクトリーに移動します。
  - a. /fromibm ディレクトリーに移動します。

```
cd fromibm
```
  - b. IBM 技術サポート担当員が用意したディレクトリーに移動します。

```
cd nameofdirectory
```
3. セッションを行うため、バイナリー・モードを使用可能にします。



binary

4. **get** コマンドを使用して、IBM 技術サポート担当員が指定したファイルをダウンロードします。

`get filename.extension`

5. FTP セッションを終了します。

`quit`

---

## サポート・アップデートのサブスクライブ

使用する IBM 製品に関する重要な情報を常に把握するために、アップデートをサブスクライブできます。

### このタスクについて

更新を受け取るようにサブスクライブすることによって、特定のサポート・ツールおよびリソースに関する重要な技術情報と更新を受け取ることができます。以下の 2 つのアプローチのいずれかを使用することにより、アップデートをサブスクライブできます。

#### RSS フィードおよびソーシャル・メディアのサブスクリプション

IBM Cognos BI については、以下の RSS フィードおよびソーシャル・メディアのサブスクリプションを利用できます。

- developerWorks® フォーラムの RSS フィード (新しいウィンドウで開きます)。
- Subscription to Cognos サポート・ノートブック・ブログへの登録 (新しいウィンドウで開きます)
- IBM Cognos Business Intelligence のサポート・サイトの RSS フィード (新しいウィンドウで開きます)

RSS の一般情報 (入門情報、RSS を使用できる IBM Web ページのリストなど) については、IBM ソフトウェア・サポート RSS フィード (新しいウィンドウで開きます) のサイトをご覧ください。

#### My Notifications

どの IBM 製品についても、My Notifications を使用して、サポート・アップデートをサブスクライブできます。E メールによる告知を日単位で受け取るか、週単位で受け取るかを指定することができます。発表、ヒント、製品フラッシュ (アラートとも言う)、ダウンロード、ドライバーなど、受信する情報のタイプを指定できます。My Notifications により、通知を受信する製品、およびユーザーのニーズに最も適した配信方法をカスタマイズして分類することができます。

### 手順

サポート・アップデートをサブスクライブするには、以下のようになります。

1. *Product* RSS フィードをサブスクライブします。
2. My Notifications にサブスクライブするには、まず IBM サポート・ポータル (新しいウィンドウで開きます) に移動して、「**通知**」ポートレットの「**My Notifications**」をクリックします。

3. 既に「My support」に登録済みの場合は、サインインして次のステップにスキップします。登録済みでない場合は、「こちらから登録ください (Register now)」をクリックします。登録フォームの IBM ID にご自分の E メール・アドレスを入力し、「送信する (Submit)」をクリックします。
4. 「プロフィールの編集 (Edit profile)」をクリックします。
5. 「製品の追加 (Add products)」をクリックし、製品カテゴリ (例えば「ソフトウェア (Software)」) を選択します。
6. 2 番目のリストで製品のセグメント (例えば「データと情報の管理 (Data & Information Management)」) を選択します。
7. 3 番目のリストで製品のサブセグメント (例:「データベース (Databases)」) を選択します。
8. 更新を受け取りたい製品を選択します。
9. 「製品の追加 (Add products)」をクリックします。
10. 対象とする製品をすべて選択した後、「プロフィールの編集 (Edit profile)」タブにある「E メールをサブスクライブ (Subscribe to email)」をクリックします。
11. 「これらの文書を毎週 E メールで送信してください (Please send these documents by weekly email)」を選択します。
12. 必要に応じて E メール・アドレスを更新します。
13. 「文書リスト (Documents list)」で、製品カテゴリ (例えば、「ソフトウェア (Software)」) を選択します。
14. 情報を受信したい文書のタイプを選択します。
15. 「更新」をクリックします。

## タスクの結果

RSS フィードおよび My Notifications の設定を変更するまで、要求した更新の通知を受け取ります。設定は必要なときに変更できます (例えば、ある製品を使用しなくなり、別の製品を使い始めた場合など)。

---

## 一般的なエラー

このセクションでは、IBM Cognos for Microsoft Office で発生する可能性がある一般的なエラーをリストします。

IBM Cognos Business Intelligence 製品で使用されている番号付きのエラー・メッセージや警告など、詳細なリストについては、IBM Cognos Business Intelligence 「管理およびセキュリティ・ガイド」を参照してください。

## 構成の問題

構成とセットアップに関連する問題を以下に示します。

### 数式に変換すると値が表示されない

クロス集計グラフを作成したときにはエラーが発生していなくても、閲覧ビュー・シートを数式に変換したときに、セルに値が正しく表示されません。値が表示されていないセルのいずれかをクリックすると、COGVAL 式が "=COGVAL(\$C\$1,

\$C\$2, \$B10, C\$8, \$B\$8)" のように表示されます。別のワークステーションで同じことをした場合には、値は正しく表示されます。ワークステーションの管理者権限があるユーザーが数式に変換してみると、ワークシートのセルに値が正しく表示されます。

ユーザーが IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストールより前に Microsoft Excel を使用しておらず、正しくレジストリーに登録されていません。この問題を解決するには、2 とおりの方法があります。問題を抱えているユーザーにワークステーションに対するローカル管理者権限を付与する方法と、**Register Cognos UDF.vbs** ファイルを実行する方法です。このファイルを実行すると、新しいユーザーに対して適正なレジストリー・エントリーが追加されます。

**Register Cognos UDF.vbs** ファイル処理が正常に動作するには (ソフトウェアのインストール時、および新規ユーザーを追加するために別個に実行するときのどちらの場合も)、Microsoft Excel のレジストリー・エントリーが Microsoft Excel によって作成されている必要があります。IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のレジストリー・エントリーを追加するよりも前に、ユーザーがまず Microsoft Excel を実行している必要があります。スクリプトによって書き込まれた "ntuser.dat" を調べれば、ユーザーが正しく追加されたかどうかを確認することができます。

## サーバーおよびパッケージの指定を更新してサーバーを使用可能にする

ゲートウェイの別名を変更した後、またはテスト環境から実稼働環境に切り替えた後に、サーバーが利用できず、Cognos ゲートウェイから Business Intelligence サーバーに接続できないことを通知する次のエラー・メッセージが表示されます。

SERVER\_NOT\_AVAILABLE: メッセージ「Cognos ゲートウェイから Cognos BI サーバーに接続できません。サーバーが使用できないか、ゲートウェイが正しく設定されていない可能性があります。」

これは、ゲートウェイ URI の変更の原因があると考えられます。

テスト環境から実稼働環境へと切り替えたり、提出などの異なった種類の財務データの情報にアクセスしたりするには、ブックでサーバーとパッケージの指定を更新します。

### 手順

1. 必要に応じて、セル参照において情報を更新することができます。
  - 更新するワークシートから、新しいサーバーとパッケージを開きます。
  - "情報" フォルダーから、更新されたサーバーとパッケージ・メタデータをサーバー・セルやパッケージ・セルにドラッグします。
2. 必要に応じて、組み込みテキストにおいて情報を更新することができます。
  - Microsoft Excel の検索および置換機能を使用して、セル式のテキストに埋め込まれている参照を更新します。

## Microsoft Office で IBM Cognos Office インターフェースを初期化できない

Microsoft .NET Framework がインストールされていないか、バージョンが正しくない場合には、IBM Cognos Office を初期化できないことがあります。必要な Microsoft .NET Framework のバージョンは、4.0 以降です。この他に、IBM Cognos Office COM アドインがインストールされていないか、登録されていないことも、原因として考えられます。

IBM Cognos Office COM アドインをインストールするには、インストール CD にある .msi プログラムを実行します。

Microsoft .NET Programmability Support をインストールするには、その前に Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 以降をインストールしておく必要があります。

## Microsoft Internet Explorer で IBM Cognos Office を初期化できない

Microsoft Internet Explorer を使って IBM Cognos Business Intelligence を閲覧し、IBM Cognos Office で発行されたブック、ドキュメント、またはプレゼンテーションを開く場合、ドキュメントは Microsoft Office で開きますが、全機能を使用できるわけではありません。

Windows 7 を使用している場合は、Microsoft Office ファイルを Internet Explorer ではなく Microsoft Office で開くように Internet Explorer を構成する方法について Microsoft の Web サイトを参照してください。Windows XP を使用している場合は、以下の手順でファイルを開く方法を変更してください。

### 手順

1. Windows XP で、「マイ・コンピューター」を開きます。
2. 「ツール」メニューの「フォルダー・オプション」をクリックします。
3. 「ファイルの種類」タブの「登録されているファイルの種類」で、「Microsoft Excel ワークシート」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。  
  
「ファイルの種類編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「同じウィンドウで開く」チェック・ボックスをオフにして、「OK」をクリックします。
5. 同じ手順で Microsoft Office PowerPoint プレゼンテーションと Microsoft Office Word ドキュメントも設定します。

## IBM Cognos Office から発行された Microsoft Office ドキュメントを Microsoft Office で開くことができない

Microsoft Windows エクスプローラーでブック、ドキュメント、またはプレゼンテーションをダブルクリックしたときに、Microsoft Office が発行済みドキュメントを 2 回開こうとする動作が確認された場合は、ファイルの関連付けが壊れているか、または正しくインストールされていません。

この問題を解決するには、2 とおりの方法があります。最初に Microsoft Office アプリケーションを起動してから「ファイル」メニューの「開く」コマンドでドキュメントを開くか、またはファイルの種類を再登録することができます。

#### ファイル・タイプを Microsoft Office プログラムに再登録する:

Microsoft Office 文書が正しいファイル・タイプに関連付けられているのにそれを開くことができない場合は、該当する Microsoft Office プログラム (Excel、Word、PowerPoint など) にそのファイル・タイプを再登録する必要があります。

#### このタスクについて

これらの手順の中で program.exe というのは、再登録する Microsoft Office プログラムの実行可能ファイルのプレースホルダーです。Microsoft Office のインストール先が別の場所である場合は、その場所に合わせて正しいパスを使用してください。

**注:** Microsoft Windows オペレーティング・システムのバージョン 7 のコマンド・ラインを使用している場合、ファイル・タイプの再登録などの特定のタスクを実行するためには、コマンド・ラインの権限を引き上げる必要があります。権限を引き上げたコマンド・プロンプトを開く、つまり、管理者モードでコマンド・プロンプトを開くには、コマンド・プロンプトのショートカットを右クリックして、「**管理者として実行**」を選択します。

#### 手順

1. 「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
2. プログラム・バージョンの関連付けを解除するには、「開く」ボックスで以下のコマンドを入力し、「OK」をクリックします。

```
program.exe/regserver
```

3. デフォルトのバージョンを指定するには、「スタート」メニューから「実行」をクリックします。
4. 「名前」ボックスに次のコマンドを入力して、「OK」をクリックします。

```
program.exe/regserver
```

#### Microsoft XP オペレーティング・システムの実行中に、発行された Microsoft Office ドキュメントを IBM Cognos Connection から開くことができない

ブック、ドキュメント、プレゼンテーションを開く (または保存する) ことを確認するプロンプトがブラウザで表示されない場合は、ファイルを開く前にプロンプトを表示するオプションがオフになっていることが考えられます。このオプションを再びオンに設定してください。

Internet Explorer の「ファイルのダウンロード」と「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を有効に設定する必要があります。

### ドキュメントを開くときの確認:

ドキュメントを開くときに確認するよう設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. Windows の「コントロール パネル」を開始します。
2. 「フォルダー オプション」をダブルクリックします。
3. 「ファイルの種類」タブの「登録されているファイルの種類」リストで、「Microsoft Excel ワークシート」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。
4. 「ダウンロード後に開く確認をする」チェック・ボックスが選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
5. Microsoft Office Excel テンプレート、Microsoft PowerPoint プレゼンテーション、Microsoft Office PowerPoint テンプレート、Microsoft Word ドキュメント、Microsoft Office Word テンプレートなど、IBM Cognos Office でサポートされる他の Microsoft Office ドキュメントについて、手順 3 および 4 を繰り返します。
6. 「閉じる」をクリックします。

### インターネット・セキュリティ・オプションの再設定:

インターネット・セキュリティ・オプションを再設定する手順は、以下のとおりです。

#### 手順

1. Internet Explorer を起動します。
2. 「ツール」メニューの「インターネット オプション」をクリックします。
3. 「セキュリティ」タブで、セキュリティ・オプションを更新する Web コンテンツ・ゾーンをクリックし、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
4. 「ダウンロード」セクションまで下にスクロールし、「ファイルのダウンロード」オプションと「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」オプションの両方で、「有効にする」をクリックします。
5. 「OK」を 2 回クリックします。

### エラー・メッセージ、.NET ショートカット、または .NET コンソールが、インストールされている .NET Framework 4.0 の言語と異なる

英語以外のバージョンの .NET Framework を英語以外のオペレーティング・システムにインストールすると、エラー・メッセージ、.NET ショートカット、および .NET コンソールが英語で表示されます。

この問題を解決するには、使用している言語の .NET Framework Language Pack を適用する必要があります。

サブキー番号が言語に関連付けられています。例えば、英語、フランス語、ドイツ語、および日本語は、それぞれ 1033=en-en、1036=fr-fr、1031=de-de、および 1041=ja となっています。その他の言語のサブキー番号を入手するには、Microsoft サポート・サイトを参照してください。

言語パックのサブキーがない場合は、.NET 言語パックをインストールする必要があります (Microsoft サポート Web サイトからこれを入手できます)。

## ブックが不意に終了する

COM アドインがインストールされており、かつ Microsoft Excel ブックの名前に大括弧が含まれている場合、そのブックを開いた後に Excel が予期せずに停止または終了します。

この問題を解決するには、ブック名に大括弧が含まれないよう名前を変更します。

## IBM Cognos Report Authoring で「名前を付けて保存」コマンドを使用した後、IBM Cognos Connection ジョブでレポートを利用できない

IBM Cognos Report Authoring でレポートを開き、「名前を付けて保存」コマンドを使用してコピーを保存すると、レポートがジョブに含まれている場合、IBM Cognos Connection ポータルでレポートを利用できないことがあります。

レポートがジョブに含まれている場合、IBM Cognos Report Authoring で変更を保存するために「名前を付けて保存」コマンドを使用しないでください。代わりに、レポートのコピーを作成し、コピーを変更して、更新したレポートを IBM Cognos Connection ポータルにコピーします。この方法を使用すると、レポートのリンクを壊さずに、ジョブのレポートを上書きできます。

## セル・ベースのレポートの内容が #NAME? を示す

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel でセル・ベースのレポートを作成するときに、セルの内容として #NAME? が表示されます。

ソース・ツリーからワークシートのセルにアイテムを直接ドラッグすると、データベース内のアイテムを参照する COGNAME または COGVAL 式が作成されます。この機能は、CognosOfficeUDF.Connect 自動化アドインがロードされている場合にのみ使用できます。

セルの内容として #NAME? が表示される場合は、アドインがロードされなかったことを意味し、「アドイン」ダイアログ・ボックス (「ツール」、「アドイン」) の「CognosOfficeUDF.Connect」チェック・ボックスが非選択です。

この問題を解決してアドインが常に正しくロードされるようにするには、OPEN レジストリー・キーの値が /A "CognosOfficeUDF.Connect" に設定されていることを確認する必要があります。Microsoft Windows オペレーティング・システムのバージョン 7 を使用する場合は、XP モードで「ファイル名を指定して実行」を使用してコマンド・プロンプトからファイル・タイプを再登録する必要があります。

## 手順

1. Windows の「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2. 「名前」ボックスに Regedit と入力して、「OK」をクリックします。
3. レジストリ エディタで、次のレジストリー分岐に移動します。

```
HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Office\バージョン  
¥Excel¥Options
```

4. トピック・エリアで、「開く」項目を右クリックし、「修正」をクリックします。
5. 「値のデータ」ボックスで、次のように入力します  

```
/A "CognosOfficeUDF.Connect"
```
6. 「OK」をクリックして、レジストリ エディタを閉じます。

## 処理の問題

次の各項目は、レポートの処理および表示に関連した問題です。

### IBM Cognos TM1 データの処理パフォーマンスを改善する

Cognos TM1 データを処理する際のパフォーマンスに問題がある場合は、Cognos TM1 システムの管理者がキューブまたはシステムの設定を変更することによって、パフォーマンスを改善できる場合があります。

Cognos TM1 の管理者がパフォーマンスの問題を診断できるように、使用しているデータの詳細と、パフォーマンスの問題が生じる操作についての説明を管理者に提供してください。

以下は、パフォーマンスに影響する Cognos TM1 の設定の例です。

#### VVM (}CubeProperties)

それぞれのキューブごとに、このプロパティは、スターゲート・ビューの保管用にサーバー上に予約される RAM の量を決定します。スターゲート・ビュー用に使用可能なメモリーが多いほど、パフォーマンスは向上します。Cognos TM1 サーバーがすべてのキューブをロードするのに十分なメモリーが使用可能になっていなければなりません。

#### VMT (}CubeProperties)

キューブ・ビューを計算するのに必要な時間が、指定されているしきい値より大きい場合、TM1 はスターゲート・ビューの保管を試みます。スターゲート・ビューを保管するために使用できるメモリーが十分でない場合、TM1 は、現在使用されていないスターゲート・ビューを、最も古いものから順にページしていくことにより、十分なメモリーが使用可能になるようにします。

CubeProperties および他のチューニング・オプションについてさらに詳しくは、*IBM Cognos TM1 操作ガイド* を参照してください。

### IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 8.4 で作成されたリストでエラーが返される

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 8.4 で作成したブックで「すべてのデータを使用して実行」または「すべてのデータを更新」を選択すると、エラーが表示されることがあります。



## 手順

Excel のすべてクリア機能を使用して、セルからデータと書式をすべて削除してから、IBM Cognos ツールバーの「すべてのデータを更新」をクリックしてください。

### **RSV-SRV-0067 メッセージ「このレポートにはアップグレード・エラーがあり、実行できません。」**

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 8.4 で作成したブックに計算を追加すると、アップグレードの警告エラーが表示されます。

## 手順

Excel のすべてクリア機能を使用して、セルからデータと書式をすべて削除してから、IBM Cognos ツールバーの「すべてのデータを更新」をクリックしてください。

### **DPR-ERR-2079 メッセージ「セキュリティー・ファイアウォールによる拒否」**

セッションの期限が切れた後にレポートを実行し、レポートの最初のページから移動しようとする、次のエラーが発生します。

DPR-ERR-2079 セキュリティー・ファイアウォールによる拒否。要求は、セキュリティー・ファイアウォールによって拒否されました。CAF 拒否の詳細は、ログで確認できます。管理者に連絡してください。

セッションの期限が切れた後に DPR-ERR-2079 のエラーが発生する場合、問題を解決するために再度ログオンする必要があります。

## 手順

1. レポート・リストで、他のアイテムの前に表示されるノード・アイテムを右クリックします。
2. 「ログオン」をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら認証資格情報を入力し、「OK」をクリックします。

### **アイテムを展開できない**

このワークシートの行数または列数が Microsoft Excel の最大数に達しました。Microsoft Excel では、行と列の数に制限があります。現在のアイテムを展開すると、行または列がシフトされてこのワークシートの制限を超えるため、アイテムを展開できません。Microsoft Office Excel は、空白ではないセルをワークシートの外までシフトすることはできません。

制限を超えずに行アイテムまたは列アイテムを展開できるよう手動でアイテムを移動するか、クロス集計グラフ、リスト、または分析を別のワークシートに移動します。データを新しい位置に移動して再試行するという方法もあります。

## 結果が Excel の行または列の制限を超えている

このワークシートの行数または列数が Microsoft Excel の最大数に達しました。Microsoft Excel では、行と列の数に制限があります。アイテムは切り捨てられます。

行または列のアイテムを制限に到達せずに表示できるよう、アイテムをフィルターに掛けてください。追加のクロス集計グラフまたはリストを作成して、複数のワークシートにデータを配分することを検討してください。行と列の制限がより広い Microsoft Excel の新しいバージョンを使用することを検討してください。

## エラー: Exception from HRESULT:<ロケーション>

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel でデータ・アイテムをインポートするときに、そのデータ・アイテムへのパスが 256 文字を超える場合、「エラー: Exception from HRESULT」が発生します。

Microsoft Excel 内部で 256 文字の制限内に収まるパッケージ名と固有のデータ ID を作成する必要があります。

## 以前のバージョンの Microsoft Excel で保存された閲覧ビューの更新時に発生するエラー

最大行数または最大列数の設定がある、古いバージョンの Microsoft Excel でブックが作成されている可能性があります。例えば、以前のバージョンの Microsoft Excel (Office XP、Office 2003 など) では、最大 256 列の制限を超える列は切り捨てられます。

当該バージョンを現在は使用していなくても、アプリケーションは古いバージョンの Excel の制限下で動作します。この問題は、ブックの作成時点よりもサイズが大きくなったアイテムを展開または更新したときに発生する可能性があります。

この問題を修正するには、ブックを .xlsx 拡張子で保存する必要があります。閲覧ビューを含むワークブックを Office 2007 または 2010 で開いても、2007 または 2010 形式に変換されません。ブックを .xlsx 拡張子で保存すると、ブックが Office 2007 または Office 2010 形式に変換され、以前のバージョンの Excel では制限されていた 256 列を超える列がサポートされるようになります。

## セキュリティの問題

次の各項目は、セキュリティのセットアップに関連した問題です。

### IBM Cognos Office で信頼関係を生成できない

Report Data サービスに対して HTTPS を使用し、関係を信頼できないというエラーを IBM Cognos Office で受け取った場合、Web サーバーによって発行された認証局 (Certificate Authority) 証明書はクライアント・ワークステーションで信頼されません。

この問題を解決するには、Web サーバー証明書を発行した認証局 (CA) がクライアント・ワークステーションでも信頼されるようにする必要があります。証明書が、Verisign など、クライアントで既に信頼済みの認証局から発行されたものでない場合は、クライアントのトラストストアに CA 証明書をインストールする必要があります。

## 手順

1. 発行元の認証局から CA 証明書を取得します。

ファイルには .cer という拡張子が付いています。これは Web サーバーで使用される証明書とは異なり、発行元の認証局自体の証明書です。

2. .cer ファイルをダブルクリックし、「証明書のインストール」、「次へ」の順にクリックします。
3. 「証明書をすべて次のストアに配置する」をクリックします。
4. 「参照」、「信頼されたルート証明機関」、「次へ」の順にクリックします。
5. 「終了」をクリックします。

### 「レポートを表示」をクリックした後にレポートを表示できない

IBM Cognos for Microsoft Office は正常に機能していますが、「レポートの表示」オプションを使用してレポートを表示できません。これは、IBM Cognos for Microsoft Office を実行中のクライアント・コンピューターが、IBM Cognos Business Intelligence で設定されたゲートウェイ URL に接続できないためです。ゲートウェイがファイアウォールで保護されているか、ホスト名/DNS がクライアント・コンピューターに認識されていないか、クライアント・コンピューターでプロキシの問題が発生しているときに、このようになる場合があります。

この接続の問題を解決するには、システム管理者に相談してください。

## IBM Cognos Office の番号付きエラー・メッセージ

次のエラー・メッセージは IBM Cognos Office のログに記録され、ダイアログ・ボックスに表示されることもあります。

### COI-ERR-2002 メッセージ「ブロック・タイプが正しくありません」

内部処理エラーが発生しました。ブロック・オブジェクトを処理できませんでした。

IBM Cognos Resource Center に連絡してください。このエラーに関連したすべてのログや詳細を提供する準備をしてください。

### COI-ERR-2003 メッセージ「予期しないタイプです: "積み上げられたブロック"」

内部処理エラーが発生しました。データ・オブジェクトが予期されたタイプではなかったため、処理できませんでした。

IBM Cognos Resource Center に連絡してください。このエラーに関連したすべてのログや詳細を提供する準備をしてください。

### COI-ERR-2005 メッセージ「このバージョンの Microsoft Office はサポートされていません」

IBM Cognos Office がサポートするのは、Microsoft Office アプリケーションの特定のバージョンのみです。

レポート・コンテンツは、サポートされているアプリケーションおよび環境にロードしてください。

オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、アプリケーション・サーバーなど、IBM Cognos の製品でサポートされている環境の最新リストを確認するには、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266>) を参照してください。

### **COI-ERR-2006 メッセージ「この Microsoft Office 製品はサポートされていません」**

IBM Cognos Office がサポートするのは、Microsoft Office Excel、Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint など、特定の Microsoft Office アプリケーションのみです。Microsoft Access など、その他の Microsoft Office アプリケーションを同時に使用するためのアドインがある場合でも、IBM Cognos Office のコンテンツをこれらのアプリケーションにロードすることはできません。

レポート・コンテンツは、サポートされているアプリケーションおよび環境にロードしてください。

オペレーティング・システム、パッチ、ブラウザー、Web サーバー、ディレクトリー・サーバー、データベース・サーバー、アプリケーション・サーバーなど、IBM Cognos の製品でサポートされている環境の最新リストを確認するには、IBM Cognos Customer Center (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27038266>) を参照してください。

### **COI-ERR-2008 リソースから取得できません。試行したリソース: '{0}'**

内部処理エラーが発生しました。

IBM Cognos Resource Center に連絡してください。このエラーに関連したすべてのログや詳細を提供する準備をしてください。

### **COI-ERR-2009 メッセージ「Microsoft Excel が編集モードのため、この操作を実行できません」**

ブックのいずれかのセルが編集モードの場合、レポート・コンテンツはリフレッシュできません。

アクティブ・セルの外側をクリックして Excel を非編集モードに戻し、再試行してください。

### **COI-ERR-2010 名前 {0} が正しくありません。名前に引用符 (") とアポストロフィ (') の両方を使用することはできません。**

フォルダーの作成、フォルダーの名前変更、ドキュメントの発行に際し、名前にアポストロフィや引用符を使用できますが、両方を同時に使用することはできません。

この問題を解決するには、フォルダーやドキュメントの名前を変更します。名前からアポストロフィまたは引用符を除外します。

### **COI-ERR-2011 メッセージ「サーバーから予期した応答が返されませんでした。ゲートウェイが有効かどうかを確認してください。」**

「オプション」ダイアログ・ボックスの「システム・ゲートウェイ URI」ボックスに入力した値が有効な IBM Cognos Business Intelligence サーバーでない場合に、このエラー・メッセージが表示されます。

この問題を解決するには、「システム・ゲートウェイ URI」に有効な IBM Cognos BI サーバーのゲートウェイ・アドレスを再度入力します。

### **COI-ERR-2013 メッセージ「メタデータをロードできません」**

ワークシートのすべてのアイテムに対してセキュリティ権限を持ってはいないか、アイテムがサーバー上で削除または変更されたために、メタデータをロードできない可能性があります。

表示しようとしているすべてのアイテムに対するセキュリティ権限があることを確認してください。これで問題が解決しない場合は、サーバーとパッケージの情報が正しいこと、およびソース・データベースから削除されたアイテムがあればそれがワークシートからも削除されていることを確認してください。

### **COI-ERR-2014 メッセージ「ヘルプ・ファイルが見つかりません」**

ヘルプ・ファイルが見つからないか、破損しています。

問題を修正するには、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel または IBM Cognos for Microsoft Office などの IBM Cognos Office コンポーネントを再インストールしてください。

製品ドキュメントの最新版 (すべての各言語版のドキュメントを含む) を入手するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。

さらに、IBM Cognos の製品ディスクには、製品のリリース・ノートとインストール・ガイドが PDF 形式で収録されています。

### **COI-ERR-2015 メッセージ「MIME でエンコードされたサーバー応答の解析中に問題が発生しました。境界 [{0}] の検索を試みましたが、代わりに境界 [{1}] が見つかりました」**

サーバーから取得したデータを圧縮するオプションの GZip 圧縮を使用している際にエラーが発生しました。データを解凍するコードが欠落しているか、IBM Cognos Office で認識されていません。

圧縮を無効にします。圧縮はデフォルトで有効になっていますが、CommManagerSettings.xml ファイルで UseGzipCompression プロパティを false に設定することで無効にできます。デフォルトでは、このファイルは Office Connection ディレクトリー (C:¥Documents and Settings¥ユーザー名 ¥Local Settings¥Application Data¥Cognos¥Office Connection または C:¥Users¥user name¥AppData¥Local¥Cognos¥Office Connection など) にあります。

テストまたはトラブルシューティングを実行する必要がある場合は、圧縮を無効にします。

gzip 圧縮を無効にするには、次の属性を設定します。

```
<setting name="UseGzipCompression">False</setting>
```

### **COI-ERR-2016 メッセージ「ワークシートが保護されています。IBM Cognos のスタイルのデータを設定できません。」**

ワークシートが保護されている場合、IBM Cognos のスタイルは適用できません。

データの更新中にスタイルを適用するには、ワークシートを保護解除する必要があります。

## **IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel の番号付きエラー・メッセージ**

次のエラー・メッセージは IBM Cognos Office のログに記録され、ダイアログ・ボックスに表示されることもあります。

### **COR-ERR-2004 メッセージ「軸の仕様が正しくありません」**

異常が発生したため、ブックの仕様を生成できません。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- 「元に戻す」をクリックする。
- 「すべてのデータをクリア」をクリックする。
- ブックを閉じた後、もう一度開く。

これで、ブックにソース・ツリーからデータを取り込めるようになります。

### **COR-ERR-2007 メッセージ「リソースからの取得中にエラーが発生しました。試行したリソース: '{0}」**

閲覧ビュー・シートが不良状態になりました。

IBM Cognos Resource Center に連絡してください。

### **COR-ERR-2009 メッセージ「名前の数式が正しくありません」**

COGNAME 式が正しく解析されませんでした。手動で変更されたことによって引数が失われている可能性があります。

アクティブ・セルの COGNAME 式を調べて正しい形式にするか、必要に応じてソース・ツリーからメンバーを挿入します。

### **COR-ERR-2010 メッセージ「数式が正しくありません」**

COGNAME または COGVAL 式の引数がセルを参照しているときに、そのセルに予期される文字列式が入っていない場合、このエラーが発生します。

セルとその参照先を確認します。セルが #REF または #VALUE となっていないか確認してください。セルの内容が誤って削除された可能性があります。

### **COR-ERR-2011 範囲が正しくありません: クロス集計グラフまたはリストの正しい範囲を入力してください**

範囲が無効であるか、データ型の範囲外です。

この制限を回避するには、データの選択範囲を狭くします。

### **COR-ERR-2013 メッセージ「コンテキスト・アイテムの中に選択アイテムを含むものがあるため、閲覧ビューを数式ベースに変換できません」**

「コンテキスト」ドロップ・ゾーンに複数のアイテムがある場合に、ワークシートのセルに複数のアイテムを表示することはできません。

「コンテキスト」ドロップ・ゾーンから 1 つのディメンションを削除します。式に基づいた分析に変換するには、ディメンションあたり 1 つのアイテムにする必要があります。

### **COR-ERR-2014 メッセージ「Excel ワークシートの制限のため、結果の最後が切り取られることがあります」**

返されたデータの列数が 250 を超える、あるいは行数が 65,500 を超える場合で、Microsoft Excel 2007 または Excel 2010 を使用していない場合、結果で切り捨てが行われます。このメッセージは切り捨てに注意を促すためのものです。

この制限を回避するには、データの選択範囲を狭くします。

### **COR-ERR-2015 メッセージ「現在の閲覧ビューをワークシート上のこの場所に表示できません」**

閲覧ビューで、現在のワークシートの制限を超えた場所にデータを書き込むことはできません。閲覧ビューの大きさが Microsoft Excel の制限を超えているか、制限に近接した開始場所を指定しています。

開始位置を移動してみてください。それでも問題が解決しない場合は、列または行の数を減らしてクロス集計グラフを作成してみてください。

### **COR-ERR-2016 メッセージ「パッケージ<名前>を取得できません」**

「パッケージを開く」ダイアログ・ボックスを使用してパッケージを選択した後、サーバーからパッケージをダウンロードしようとしてエラーが発生しました。

これは内部エラーです。Cognos Software Services に連絡する必要があります。

### **COR-ERR-2017 メッセージ「現在の選択内容ではデータは返されませんでした」**

ソース・ツリーでの選択内容ではデータが返されませんでした。閲覧ビュー・シートはクリアされるか、前の状態に戻ります。

ワークシートにアイテムを表示するには、データ・ポイントと交差するオブジェクトをソース・ツリーから選択する必要があります。

### **COR-ERR-2018 メッセージ「ヘルプ・ファイルが見つかりません」**

ヘルプ・ファイルが見つからないか、破損しています。

問題を修正するには、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel または IBM Cognos for Microsoft Office などの IBM Cognos Office コンポーネントを再インストールしてください。IBM Cognos Customer Service Center (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/overview>) からドキュメント用のディレクトリーに .pdf ファイルをコピーすることもできます。



## 付録 C. IBM Cognos Office コンポーネントのブランド変更

このセクションで対象としている読者は、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel、IBM Cognos Office、IBM Cognos for Microsoft Office バージョン 8.4 以降のような IBM Cognos Office 製品で、ラベルやメッセージなどの文字列のブランド変更、カスタマイズ、ローカライズを必要としているクライアントとパートナーです。

### リソース・ファイル

IBM Cognos Office 製品のカスタマイズ可能な文字列はすべて、XML ベースのリソース・ファイル (.resx) にあります。

.resx リソース・ファイル形式は、オブジェクトと文字列を XML タグで囲んで指定する XML エントリーで構成されます。 .resx ファイルの利点の 1 つは、メモ帳や Microsoft Word のようなテキスト・エディターで開いて、書き込み、解析、および操作が可能であることです。画像のような埋め込みオブジェクトのバイナリー情報がリソース・マニフェストの一部になっている場合には、.resx ファイルを表示したときに、埋め込みオブジェクトがバイナリー形式になっていることがあります。このようなバイナリー情報を別にすれば、.resx ファイルは解読可能で、維持管理も可能です。

.resx ファイルにはリソース・エントリーの形式を記述する標準的なヘッダー情報のセットが入っており、データを解析する XML コードのバージョン情報の指定も含まれています。

これらのファイルの中に、3 つの IBM Cognos Office コンポーネントで使われるすべてのテキストの文字列、ラベル、キャプション、およびタイトルがすべて入っています。言語ごとに、各コンポーネントに対応ファイルが合わせて 3 つあります。次の表に、それぞれのファイルを示します。

表 3. IBM Cognos Office リソース・ファイル

言語	IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel ファイル (内部名 cor)	IBM Cognos for Microsoft Office ファイル (内部名 coc)	IBM Cognos Office ファイル (内部名 coi)
言語中立	cormsgs.resx	cocmsgs.resx	coimsgs.resx
中国語 (簡体字)	cormsgs.zh-cn.resx	cocmsgs.zh-cn.resx	coimsgs.zh-cn.resx
中国語 (繁体字)	cormsgs.zh-tw.resx	cocmsgs.zh-tw.resx	coimsgs.zh-tw.resx
クロアチア語	cormsgs.hr.resx	cocmsgs.hr.resx	coimsgs.hr.resx
チェコ語	cormsgs.cs.resx	cocmsgs.cs.resx	coimsgs.cs.resx

表 3. IBM Cognos Office リソース・ファイル (続き)

言語	IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel ファイル (内部名 cor)	IBM Cognos for Microsoft Office ファイル (内部名 coc)	IBM Cognos Office ファイル (内部名 coi)
デンマーク語	cormsgs.da.resx	cocmsgsgs.da.resx	coimsgsgs.da.resx
オランダ語	cormsgs.nl.resx	cocmsgsgs.nl.resx	coimsgsgs.nl.resx
英語	cormsgs.en.resx	cocmsgsgs.en.resx	coimsgsgs.en.resx
フィンランド語	cormsgs.fi.resx	cocmsgsgs.fi.resx	coimsgsgs.fi.resx
フランス語	cormsgs.fr.resx	cocmsgsgs.fr.resx	coimsgsgs.fr.resx
ドイツ語	cormsgs.de.resx	cocmsgsgs.de.resx	coimsgsgs.de.resx
ハンガリー語	cormsgs.hu.resx	cocmsgsgs.hu.resx	coimsgsgs.hu.resx
イタリア語	cormsgs.it.resx	cocmsgsgs.it.resx	coimsgsgs.it.resx
日本語	cormsgs.ja.resx	cocmsgsgs.ja.resx	coimsgsgs.ja.resx
カザフ語	cormsgs.kk.resx	cocmsgsgs.kk.resx	coimsgsgs.kk.resx
韓国語	cormsgs.ko.resx	cocmsgsgs.ko.resx	coimsgsgs.ko.resx
ノルウェー語	cormsgs.no.resx	cocmsgsgs.no.resx	coimsgsgs.no.resx
ポーランド語	cormsgs.pl.resx	cocmsgsgs.pl.resx	coimsgsgs.pl.resx
ポルトガル語	cormsgs.pt.resx	cocmsgsgs.pt.resx	coimsgsgs.pt.resx
ルーマニア語	cormsgs.ro.resx	cocmsgsgs.ro.resx	coimsgsgs.ro.resx
ロシア語	cormsgs.ru.resx	cocmsgsgs.ru.resx	coimsgsgs.ru.resx
スロベニア語	cormsgs.sl.resx	cocmsgsgs.sl.resx	coimsgsgs.sl.resx
スペイン語	cormsgs.es.resx	cocmsgsgs.es.resx	coimsgsgs.es.resx
スウェーデン語	cormsgs.sv.resx	cocmsgsgs.sv.resx	coimsgsgs.sv.resx
タイ語	cormsgs.th.resx	cocmsgsgs.th.resx	coimsgsgs.th.resx
トルコ語	cormsgs.tr.resx	cocmsgsgs.tr.resx	coimsgsgs.tr.resx

## IBM Cognos Office コンポーネントのブランド変更またはローカライズ

IBM Cognos コンポーネントを複数言語環境用に設定する場合は、言語中立ファイルとロケール用の言語ファイルの両方をコンパイルする必要があります。プログラムは、Windows のユーザー・ロケール設定を検出して、適切な言語ファイルを使用します。

例えば IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をインストールし、ロケールがフランス語 (フランス) に設定されているとします。この場合、言語中立ファイル `cormsgs.resx` および `coimsgs.resx` と、フランス語のファイル `cormsgs.fr.resx` および `coimsgs.fr.resx` を変更する必要があります。

コンポーネントの名称やテキスト・メッセージをカスタマイズまたはローカライズするには、次の手順に従います。

- 言語中立リソース・ファイルを編集し、必要に応じて、ロケールの言語リソース・ファイルを編集します。
- 更新後のリソース・ファイルのコンパイルに必要なリソース・ファイル・ジェネレーター (`resgen.exe`) をダウンロードして、実行します。
- 作業結果をテストします。

### リソース・ファイル (.resx) の編集

コンポーネントごとに、さまざまな言語をサポートするファイルのセットがあります。ファイル名は、国または地域のコードで識別できます。

デフォルト・ファイルとして機能する言語中立ファイル (`cormsgs.resx`、`cocmsgs.resx`、`coimsgs.resx` など) を除くと、それぞれのファイルは次の命名規則に従います。

コンポーネント・コード `msgs.言語コード.resx`

文字列を変更することはできますが、アイコンと画像のリソースは変更できません。

テキストの文字列を変更するときには、文字列の長さに注意してください。フィールドの幅は、それまでの文字列に基づいて作成されています。文字列の長さを著しく増やすと、ダイアログ・ボックスによっては、文字列が途中で切り捨てられる可能性があります。

リソース・ファイルにはメタデータやコメントも含まれているため、ソフトウェアの中で文字列がいつ、どこで使用されるかを判断するのに役立ちます。

**重要:** XML リソース・ファイルを編集するには、XML エディターを使用してください。空白を含む Unicode のエンコードとフォーマットを保持することが重要です。簡易型のテキスト・エディターを使うと、ファイルが壊れる可能性があります。検証機能がある XML エディターを使用すると、ファイルの内容が正しい形式になり、妥当性が保たれます。文字列情報のみを変更するようにしてください。ファイル内の他の情報は変更しないでください。

## 手順

1. IBM Cognos Office コンポーネントをワークステーションにローカルにインストールします。

これにより、リソース・ファイルにアクセスできます。

2. リソース・ファイルの場所を見つけます。

ローカルにインストールし、デフォルトをすべて受け入れた場合、リソース・ファイルは次の場所にあります。

インストール・ディレクトリー:¥Program Files¥IBM¥cognos¥Cognos for Microsoft Office¥resources

3. XML エディターで "コンポーネント・コードmsgs.言語コード.resx" ファイルを開きます。

ブランドの詳細な内容を変更する場合や、文字列を別の言語に翻訳する場合には、Visual Studio や XMLSpy などのエディターを使用してください。

新しい言語ファイルを作成する場合は、命名規則に従って、2 文字または 5 文字の言語コードをファイル名の途中に挿入します。例えば IBM Cognos for Microsoft Office 用にルーマニア語の言語ファイルを追加するときには、「cocmsgs.ro.resx」としてファイルを保存します。

4. ファイルを保存します。
5. 翻訳対象の言語に関連するコンポーネント・ファイルごとに、手順 3 と 4 を繰り返します。

## タスクの結果

これで、更新したリソース・ファイルをコンパイルする準備ができました。

## 更新されたリソース・ファイルのコンパイル

更新したファイルを配布するには、その前にリソース・ファイル・ジェネレーター (resgen.exe) をダウンロードする必要があります。リソース・ファイル・ジェネレーターは、.txt ファイルと .resx (XML ベースのリソース形式) ファイルを共通言語ランタイムの .resources バイナリー・ファイルに変換します。このファイルをランタイム・バイナリー実行可能ファイルに組み込むことも、サテライト・アセンブリーにコンパイルすることもできます。

リソース・ファイル・ジェネレーターは、コンパイル済みのリソース・ファイルを生成する Microsoft .NET Framework Software Development Kit (SDK) プログラムです。resgen 実行可能ファイルは Microsoft .NET SDK および Microsoft Visual Studio 開発システムに付属しています。IBM Cognos Office コンポーネントで使用される .NET Framework のバージョンと互換性がある、リソース・ファイル・ジェネレーターのバージョンを選ぶ必要があります。

resgen.exe は次のような変換を実行します。

- .txt ファイルから .resources ファイルまたは .resx ファイルへの変換
- .resources ファイルからテキスト・ファイルまたは .resx ファイルへの変換
- .resx ファイルからテキスト・ファイルまたは .resources ファイルへの変換

## 手順

1. Microsoft .NET 開発者 Web サイトから resgen.exe をダウンロードできます。
2. リソース・ファイル・ジェネレーターをダウンロードした後、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
3. resgen がダウンロードされた場所を見つけてそこに移動します。

例えば「cd C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio 8¥v2.0¥Bin」と入力します。

4. リソース・ファイルをコンパイルするには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
Resgen /compile "C:¥.resx file location¥file name.resx"
```

例えば「resgen /compile "c:¥ProgramFiles¥Cognos¥Cafe¥resources¥cormsgs.resx"」と入力します。

リソース・ファイルのファイル名は、自動的に変更されて .resource 拡張子が付けられます。

5. 処理結果のファイルをすべて ¥Resources ファイル・ディレクトリーにコピーします。

## 作業結果のテスト

作業結果をテストするには、さまざまなロケールを使用して IBM Cognos Office を実行し、各コンポーネント (IBM Cognos Office、IBM Cognos for Microsoft Office、IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel) を起動することにより、変更内容がそれぞれの領域に反映されていることを確認します。

ユーザーに表示されるすべてのインターフェースで、テキストが変更されていることを確認します。見落としがちな汎用のダイアログ・ボックスは特に念入りに確認してください。



---

## 付録 D. 無人インストールのセットアップ

ネットワーク上の複数のコンピューターに同一の構成をインストールするために、またはユーザーのオプションや設定を指定することでインストール・プロセスを自動化するために、無人インストールおよび構成をセットアップできます。

無人インストールをセットアップする方法は 2 つあります。どちらの方法も、転送仕様ファイル (.ats) を使用することで、情報を求めるプロンプトを表示させずに IBM Cognos for Microsoft Office コンポーネントをコンピューターにコピーします。

1 つの方法は、コンピューター上でインストール・ウィザードを実際に行うことです。その際に選択する項目が転送仕様ファイル (.ats) に記録されます。生成された .ats ファイルを使用して、ネットワーク上の他のコンピューターで無人インストールを実行できます。別の方法として、デフォルトの response.ats ファイルを使ってインストールを自動化することもできます。インストーラーは対話を必要とせず、代わりに response (応答) ファイル内の値を使用します。

無人インストールおよび構成をセットアップする前に、システム要件と前提条件がすべて満たされていること、およびサード・パーティー製品がすべてインストールされ、構成されていることを確認してください。

詳細については、9 ページの『第 4 章 IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール』を参照してください。

無人インストールおよび構成をセットアップするには、次のようにします。

- インストール・オプションを指定する転送仕様ファイル (.ats) を構成する
- インストール・ツールをサイレント・モードで実行する

---

### インストール・ウィザードから生成されたファイルを使用したインストールのセットアップ

デフォルトでは、インストール・ウィザードを使って IBM Cognos Office コンポーネントをインストールするたびに、どのオプションを選択したかが転送仕様ファイルに記録されます。したがって、デプロイメント用コンピューターに IBM Cognos Office コンポーネントを既にインストールしている場合、生成された転送仕様ファイルをテンプレートとして使用して、別のコンピューターで無人インストールを実行できます。これを行うには、コマンド行からインストーラーを起動して、応答ファイルを引数として渡すことができます。

無人インストールが成功したかどうか検査するには、戻り状況を確認することができます。値ゼロ (0) は成功を示し、他のすべての値はエラーの発生を示しています。

## 手順

1. インストール・ウィザードを使用して、IBM Cognos Office コンポーネント (例えば IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel または IBM Cognos for Microsoft Office) をコンピューターにインストールします。
2. *c10 Office* の場所/instlog に移動します。
3. 次のようにして、生成された転送仕様ファイル (.ats) を見つけます。
  - IBM Cognos for Microsoft Office をインストールした場合、ファイル名は ts-COC-version-yyyymmdd\_hhmm.ats です。
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel をインストールした場合、ファイル名は ts-COR-version-yyyymmdd\_hhmm.ats です。
4. IBM Cognos Office コンポーネントをインストールする予定のコンピューターに、転送仕様ファイルをコピーします。
5. ソフトウェアをインストールする予定のコンピューターで、該当する CD を挿入して、CD の内容をコンピューターにコピーします。
6. テキスト・エディターで、コピーされた転送仕様ファイル (.ats) を開きます。
7. License Agreement という名前のセクションで、**I AGREE=** プロパティを y に変更します。

この操作は、ご使用条件に同意することを意味します。使用許諾契約書を読んで確認するには、以下のいずれかの場所で「LA\_言語コード」ファイルおよび notices ファイルを表示します。

- 製品ディスクでは、オペレーティング・システムのルート・インストール・ディレクトリー
  - response.ats ファイルのコピー元コンピューターでは、*c10* の場所license¥製品 ディレクトリー
8. インストール CD の内容をコピーしたディレクトリー、およびインストーラー実行可能ファイル issetup.exe が入っているのと同じフォルダーに、転送仕様ファイルを保存します。
  9. 「コマンド・プロンプト」ウィンドウを開いて、インストーラー issetup.exe があるディレクトリーに移動します。
  10. 以下のコマンドを入力します。location は転送仕様ファイルのファイル・パスの場所です。

```
issetup -s location/filename.ats
```

インストールの進捗状況が Windows タスクバーに表示されます。

ゼロ (0) が戻されない場合、ログ・ファイルでエラー・メッセージを確認してください。インストール・ディレクトリーにある以下のログ・ファイルに、エラーが記録されます。

- IBM Cognos for Microsoft Office に関するファイル名は tl-COC-version-yyyymmdd-hhmm\_summary-error.txt です。
- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel に関するファイル名は tl-COR-version-yyyymmdd-hhmm\_summary-error.txt です。



初期設定がまだ不十分な時点でエラーが発生した場合、ログ・メッセージは Temp ディレクトリー内の以下のいずれかのログ・ファイルに送られます。

- IBM Cognos for Microsoft Office に関するファイル名は `tl-COC-version-yyyymmdd-hhmm.txt` です。
- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel に関するファイル名は `tl-COR-version-yyyymmdd-hhmm.txt` です。

---

## response.ats ファイルを使用したインストールのセットアップ

インストール・ウィザードを使ってコンポーネントをインストールしない場合、CD にある `response.ats` という名前のデフォルト転送仕様ファイルを使用できます。

`response.ats` ファイルを使用すると、情報の入力を求められることなく、複数のコンピューターに IBM Cognos Office コンポーネントをコピーできます。

`response.ats` ファイルを使って無人インストールを実行する前に、実際の環境に合わせてファイルの内容を変更する必要があります。

無人インストールが成功したかどうか検査するには、戻り状況を確認することができます。値ゼロ (0) は成功を示し、他のすべての値はエラーの発生を示しています。

### 手順

1. ターゲット・コンピューターに CD を挿入して、その内容をコンピューターにコピーします。
2. テキスト・エディターで、コピーしたファイル構造内のオペレーティング・システムのディレクトリーに移動して、`response.ats` ファイルを開きます。

`response.ats` ファイル内の各セクションは、インストール・ウィザードでの 1 つのダイアログ・ボックスに対応しています。

3. `License Agreement` という名前のセクションで、`I AGREE=` プロパティーを `y` に変更します。

この操作は、ご使用条件に同意することを意味します。使用許諾契約書を読んで確認するには、製品ディスクのオペレーティング・システムのルート・インストール・ディレクトリーにある「LA\_言語コード」ファイルおよび `notices` ファイルを表示します。

4. 「`APPDIR=場所`」では、IBM Cognos for Microsoft Office コンポーネントのプログラム・ファイルのインストール先を入力します。

ヒント: 等号 (=) のどちら側にもスペースを含めないでください。

5. `APPFOLDER=` プロパティーでは、プログラムのショートカットを入れる「スタート」メニュー・フォルダーの名前を入力します。

ヒント: すべてのユーザーに対してショートカット・フォルダーを表示するには、`ALLUSERS_FLAG=` プロパティーに `1` を入力します。

6. [`Component List`] という名前のセクションでは、各コンポーネントに続く部分で、
  - そのコンポーネントをインストールする場合は `1` を入力します。

- そのコンポーネントをインストールしない場合は 0 を入力します。

例: COR\_APP=0、COC\_APP=0。

7. [Install Conditions] セクションでは、
  - その条件が true であることを指定するには 1 を入力します。
  - その条件が false であることを指定するには 0 を入力します。
8. 必要な変更を行った後、response.ats ファイルをローカル・ディレクトリーに保存します。
9. 「コマンド・プロンプト」ウィンドウを開いて、インストーラー issetup.exe があるディレクトリーに移動します。
10. 以下のコマンドを入力します。location は転送仕様ファイルのファイル・パス場所です。 issetup -s location/response.ats

インストールの進捗状況が Windows タスクバーに表示されます。

ゼロ (0) が戻されない場合、ログ・ファイルでエラー・メッセージを確認してください。インストール・ディレクトリーにある以下のログ・ファイルに、エラーが記録されます。

- IBM Cognos for Microsoft Office に関するファイル名は tl-COC-version-yyyyymmdd-hhmm\_summary-error.txt です。
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel に関するファイル名は tl-COR-version-yyyyymmdd-hhmm\_summary-error.txt です。
11. 初期設定がまだ不十分な時点でエラーが発生した場合、ログ・メッセージは Temp ディレクトリー内の以下のいずれかのログ・ファイルに送られます。
    - IBM Cognos for Microsoft Office に関するファイル名は tl-COC-version-yyyyymmdd-hhmm.txt です。
    - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel に関するファイル名は tl-COR-version-yyyyymmdd-hhmm.txt です。

---

## 特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group  
Attention: Licensing  
3755 Riverside Dr  
Ottawa, ON K1V 1B7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、著作権および商標情報の Web サイト ([www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)) をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。



# 索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

### アクセス権

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール要件 13

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使うための要件 16

### アンインストール

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel 13

インストーラー・プログラム 50

### インストール

無人 49

ユーザー対話なし 50

COM アドイン 30

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel 9

Microsoft .NET Framework 10

インストール前のリリース・ノートの確認 7

インストール・ウィザード 13

ユーザー補助 19

### 英語以外のオペレーティング・システム

.NET Framework のトラブルシューティング 32

### エラー・メッセージ

エラー: Exception from HRESULT:<ロケーション> 36

結果が Excel の行または列の制限を超えている 36

このアイテムを展開できない 35, 36

サーバーを利用できない 29

数式に変換すると値が表示されない 29

発行された Microsoft Office ドキュメントを IBM Cognos BI から開くことができない 31

「レポートを表示」をクリックした後にレポートを表示できない 37

COI-ERR-2002 ブロック・タイプが正しくありません 37

COI-ERR-2005 このバージョンの Microsoft Office はサポートされていません 37

COI-ERR-2006 この Microsoft Office 製品はサポートされていません 38

COI-ERR-2008 リソースから取得できません 38

COI-ERR-2009 Microsoft Excel が編集モードのため、この操作を実行できません 38

COI-ERR-2010 名前 {0} が正しくありません。名前に引用符 (") とアポストロフィ (') の両方を使用することはできません。 38

COI-ERR-2011 サーバーから予期した応答が返されませんでした 39

COI-ERR-2016 ワークシートが保護されています。IBM Cognos のスタイルのデータを設定できません 40

### エラー・メッセージ (続き)

COR-ERR-2004 軸の仕様が正しくありません 40

COR-ERR-2007 リソースからの取得中にエラーが発生しました 40

COR-ERR-2009 名前の数式が正しくありません 40

COR-ERR-2010 数式が正しくありません 40

COR-ERR-2011 範囲が正しくありません: クロス集計グラフまたはリストの正しい範囲を入力してください 41

COR-ERR-2013 閲覧ビューを数式ベースに変換できません 41

COR-ERR-2014 Excel ワークシートの制限のため、結果の最後が切り取られることがあります 41

COR-ERR-2015 現在の閲覧ビューをワークシート上のこの場所に表示できません 41

COR-ERR-2016 パッケージを取得できません 41

COR-ERR-2017 現在の選択内容ではデータは返されませんでした 41

COR-ERR-2018 ヘルプ・ファイルが見つかりません 42

Excel ブックが不意に終了する 33

IBM Cognos Office から発行されたブックを Microsoft Office Excel で開くことができない 31

IBM Cognos Office で信頼関係を生成できない 37

IBM Cognos Report Authoring で「名前を付けて保存」コマンドを使用した後、IBM Cognos Connection ジョブでレポートを利用できない 33

Microsoft Internet Explorer で IBM Cognos Office を初期化できない 30

Microsoft Office で IBM Cognos Office を初期化できない 30

### オペレーティング・システム

サポートされるバージョン 7

## [カ行]

### 仮想化

サポートされている環境 7

### 環境

キーボード・ショートカット 19

期限切れのセッション 35

### クライアント・ソフトウェア

インストール 13

### 言語

中国語 (簡体字) のサポート 14

バック・サブキーのトラブルシューティング 32

GB18030 サポート・パッケージのインストール 15

### 検査

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール 16

## [サ行]

- サーバーを利用できないというエラー・メッセージ 29
- 財務アナリスト
  - 役割 5
- サイレント・インストール 49
- サブスクライブ
  - トラブルシューティング・テンプレート 27
- サポートされている環境 7
- システム要件 7
- ショートカット・キー 19
- 数式に変換
  - エラー 29, 36
- スクリーン・リーダー 19
- 製品
  - サポートされるバージョン 7
- セキュリティの問題 36
- セキュリティ・ファイアウォールによる拒否 35
- セル・ベースのレポート
  - #NAME? エラー 33
- ソフトウェア要件
  - サポートされている製品バージョン 7

## [タ行]

- 中国語 (簡体字)
  - サポートされるフォント 16
  - ロケールのサポート 14
  - GB18030 言語パッケージのインストール 15
- データ・モデル作成者
  - 役割 5
- 転送仕様ファイル (.ats) 49, 50, 51
- 特権
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストールに必要な 13
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使うために必要な 16
- トラブルシューティング 21
  - サポートのサブスクライブ 27
  - 知識ベース
    - トラブルシューティング・ソリューションの検索 23
  - 知識ベース内の検索 23
  - フィックス
    - 入手 24
  - フィックスの入手 24
  - 問題の識別 21
  - exchanging IBM サポートとの情報の交換 25
  - IBM サポートへの連絡 24

## [ナ行]

- ナビゲーション・キー 19
- 認証局 (CA)
  - 信頼関係を生成できない 37

## [ハ行]

- 発行済みドキュメント
  - IBM Cognos Connection から開けない 31
  - Microsoft Office で開く 31
- パフォーマンス
  - Cognos TM1 データ・ソース 34
- 非 Unicode 言語 16
- ビジネス・アナリスト
  - 役割 5
- ファイルの種類
  - 再登録 31
  - 登録 31
- フォント
  - 中国語 (簡体字) 16
  - リンクまたはチェーン 16

## [マ行]

- 無人インストール 49
- 問題判別
  - exchanging IBM サポートとの情報の交換 25

## [ヤ行]

- ユーザー補助
  - インストール・ウィザード 19
  - 製品の機能 19
- 要件
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel のインストール 13
  - IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を使うための 16

## [ラ行]

- リリース・ノート 7
  - インストール前の確認 7
- レジストリー項目 16
- レポート
  - セッションの期限が切れた後に IBM Cognos for Microsoft Office レポートを実行する 35
  - IBM Cognos for Microsoft Office でレポートを表示できない 37
  - #NAME? エラーのあるセル・ベースの 33
- ロケール
  - 中国語 (簡体字) 14

## A

- analysis\_excel.msi ファイル 13

## C

- Cognos TM1 データ・ソース
  - パフォーマンスの改善 34



COM アドイン  
Excel ブックが不意に終了する 33

## D

DPR-ERR-2079 エラー 35

## G

GB18030  
中国語 (簡体字) 言語サポート 15

## I

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel  
アンインストール 13  
クライアント・コンポーネントのインストールの検査 16  
セル・ベースのレポートのエラー 33  
番号付きエラー・メッセージ 40  
ユーザーの役割と責任 5

IBM Cognos BI ゲートウェイ・アドレス 39

IBM Cognos Connection  
発行された Microsoft Office ドキュメントを開けない 31  
利用できないレポートのトラブルシューティング 33

IBM Cognos for Microsoft Office  
セキュリティ・ファイアウォールによる拒否 35  
レポートを表示できない 37

IBM Cognos Office  
サポートされる Microsoft Office アプリケーション 37  
セキュリティの問題 36  
発行済みドキュメントを開くときのトラブルシューティング  
31  
番号付きエラー・メッセージ 37  
Microsoft Office で初期化に失敗する 30

IBM サポート  
情報の送受信 25  
連絡 24

Internet Explorer 30

issetup.exe (インストーラー) 50

## M

Microsoft Excel  
行と列の制限、解決 35, 36  
コンテンツのリフレッシュ、トラブルシューティング 38  
ブックが不意に終了する 33  
#NAME? エラー 33

Microsoft Internet Explorer  
セキュリティ・オプションを設定する 31  
IBM Cognos Office を初期化できない 30

Microsoft .NET Framework 10  
インストール 10

## P

PIA (Primary Interop Assemblies) 10, 12  
インストール 11  
サブキーのインストール 30

Primary Interop Assemblies (PIA) 10, 30  
インストール 11

Primary Interop Assemblies (PIA) 再頒布可能パッケージ  
インストール 12

## R

Report Authoring  
ジョブでの変更の保存 33

response.ats 49, 51

RSS フィード  
トラブルシューティング 27

## S

SimSun18030.ttc 16

## T

ttc ファイル 16

## [特殊文字]

#NAME? エラー 33

.ats ファイル 49

.ats ファイル・タイプ 50

.exe ファイル・タイプ 50

.NET Framework 10, 11, 12  
トラブルシューティング 32  
バージョン 30

.NET Programmability Support 30

.ttc 16  
1, 5